

2023（令和5）年度

駒澤大学 × SDGs 活動報告書



駒澤大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

目 次

1. 学長メッセージ	03
2. SDGs とは	04
3. 駒澤大学SDGs 実行宣言	05
4. 2023（令和5）年度 駒澤大学における「SDGs」について取組み	07
特集1：「駒澤大学×SDGs」と題したSDGs研修	08
特集2：ゼミによる「SDGsゼミ発表会」を開催	10
(SDG：1) 貧困をなくそう	11
(SDG：2) 飢餓をゼロに	13
(SDG：3) すべての人に健康と福祉を	15
(SDG：4) 質の高い教育をみんなに	21
(SDG：5) ジェンダー平等を実現しよう	31
(SDG：6) 安全な水とトイレを世界中に	37
(SDG：7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに	38
(SDG：8) 働きがいも経済成長も	41
(SDG：9) 産業と技術革新の基盤をつくろう	45
(SDG：10) 人や国の不平等をなくそう	50
(SDG：11) 住み続けられるまちづくりを	54
(SDG：12) つくる責任 つかう責任	61
(SDG：13) 気候変動に具体的な対策を	66
(SDG：14) 海の豊かさを守ろう	67
(SDG：16) 平和と公正をすべての人に	68
(SDG：17) パートナリシップで目標を達成しよう	70
(SDGs 全般)	78

学長メッセージ

国連が2030年までに世界中の国々が達成を目指すべき共通の目標として掲げた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を受け、世界中で、また日本国内でもさまざまな取り組みが進んでいます。

駒澤大学のSDGsの原点は、建学の理念「仏教の教えと禅の精神」にある「智慧（ちえ）と慈悲（じひ）」の心にあります。「智慧と慈悲」は、本質の洞察に基づいて、あらゆるものを大切に扱うということです。この心は、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない社会の実現（leave no one behind）」と通じるものであり、SDGsの17の目標は、本学が目指し続けてきた社会の実現のための目標でもあります。

2021年4月に学長就任の際、本学の目指すべき方向性として、「デジタル化（DX）の推進による大学のマネジメント改革」と「ダイバーシティ（多様性）の尊重による個を活かす大学」の2つを掲げ、今日までこれを推進して参りました。

ダイバーシティの尊重は、SDGsの17の目標の中の目標5であるジェンダー平等につながっています。多様性といってもその内容は多岐に渡りますが、中でもわかりやすいのがジェンダーギャップ指数です。その分かり易い項目について、わが国は先進国の中で最下位にあります。本学が掲げる「ダイバーシティの尊重による個を活かす大学」という目標は、共生社会の実現につながるものです。

そして、デジタル化はダイバーシティの尊重を支える大切な手段です。オンラインツールを使うことによって、学び方、働き方にさまざまな選択肢が出現しました。一人ひとりが自分に合った選択ができることは、ダイバーシティの尊重、個の尊重につながります。

今年度も本学では様々なSDGsの取り組みがありました。2023年3月より新たな試みとして開始したSDGsに関する研修動画の配信は一層の充実が図られました。この研修動画は広く公開され、本学らしいSDGs活動のあり方をお伝えするツールとなっています。また、学生による積極的なSDGs推進の取り組みも数多く見られました。それぞれの取り組みは多様なステークホルダーが互いを思い合い、意見を交わし、協働して課題解決のために行われたことが伝わってまいりました。

持続可能な社会を実現する方法は多様にあります。『駒澤大学×SDGs活動報告書』に掲載されている取り組み事例が、個人レベルでの取り組みのヒントになれば幸いです。本報告書を通じて、これからも本学のSDGs活動について紹介してまいります。

今後も、駒澤大学の根幹である「仏教の教えと禅の精神」にある「智慧と慈悲」をSDGs活動に取り組む際の心のよりどころとしながら、個が生きる社会の実現に向けて、教職員、学生、地域社会、様々なステークホルダーと協働し、一層取り組みを推進いたします。

駒澤大学学長 各務 洋子

SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

（出典：外務省ホームページ）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

■SDGs17の目標

 <p>1 貧困をなくそう</p>	あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる	 <p>2 飢餓をゼロに</p>	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う	 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	国内及び各国家間の不平等を是正する
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	持続可能な消費生産形態を確保する
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

駒澤大学 SDGs実行宣言

駒澤大学は、近未来における地球的規模での危機を十分に認識し、人類及び世界における持続可能な社会の構築のために2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」に共感・賛同し、その達成に向けて、各国・各機関・各組織等をはじめとする様々な人々と密接に協力し、本学の教育・研究等の諸活動において、全学的に、積極的に貢献していくことを、ここに宣言します。

駒澤大学は、建学の理念「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」に基づき、「ともに、よりよい明日を築く」ことをその使命としてまいりました。これを原点として、近時、喫緊の課題となっている「ダイバーシティ&インクルージョン（多様性を認め、受け入れて活かすこと）」を推し進めるために、〈個〉を活かした「しなやかな大学の実現」を目指しています。

私たちは、長きにわたって本学が堅持してきた仏教的価値観が、「SDGs」という人類の英知に基づく網羅的な課題認識と呼応すると受け止め、「誰一人取り残さない社会の実現」と、「あらゆる存在を尊重する社会の実現」に向けて、今後とも主体的に目指してまいります。

「誰一人取り残すことなく、ともに、あらゆる存在を尊重する社会の実現」のために、本学は教職員、学生、地域社会など、様々なステークホルダーと協働し、以下のSDGsの達成に向けた行動目標を定め、積極的かつ具体的に取り組みを進めてまいります。

SDGsの達成に向けた行動目標

- (教育) 駒澤大学は、質の高い教育の維持に努め、自ら考え、行動する人材を育成します。
- (研究) 駒澤大学は、専門的な学問の研究、技術開発の研究を推進し、その実践を目指します。
- (協働) 駒澤大学は、パートナーと協働し、知の拠点として情報を発信し、SDGsの達成に貢献します。

2022年4月28日
駒澤大学



Komazawa University SDGs Declaration

Komazawa University is fully cognizant of the risk of a global-scale crisis in the near future. We support the Sustainable Development Goals (SDGs), which were adopted at the September 2015 UN Summit with the aim of building a sustainable society for people and for the world. We hereby declare our intention to work closely together with countries, institutions, organizations, and various other parties and, through our education and research activities, to contribute to the achievement of these goals.

“Buddhist Teachings and the Spirit of Zen” are our founding principles, and our mission is “building a brighter future, together.” In order to encourage diversity and inclusion, which has in recent years become an issue of great importance, we seek to become a flexible university that maximizes “individuality.”

We have been committed to Buddhist values for many years, and we believe these values are closely compatible with SDGs, which are a reasoned summation of the issues facing our planet. Going forward, we will actively seek to realize a society in which no one is left behind, and in which all forms of life are respected.

For the sake of a society in which no one is left behind, and in which all forms of life are respected, our university has worked together with various stakeholders—including our academic staff, students, and local communities—to formulate the target actions listed below to achieve SDGs. We will actively implement concrete initiatives to this end.

Target actions to achieve SDGs:

- | | |
|-----------------|---|
| (Education) | At Komazawa University, we will endeavor to provide a consistently high level of education, and nurture people capable of thinking and acting for themselves. |
| (Research) | At Komazawa University, we will encourage research in specialized fields of learning and research in technical development, and seek to put the fruit of this research into practice. |
| (Collaboration) | At Komazawa University, we will work together with our partners, transmit information as a bastion of learning, and contribute to the realization of SDGs. |

Komazawa University
April 28, 2022



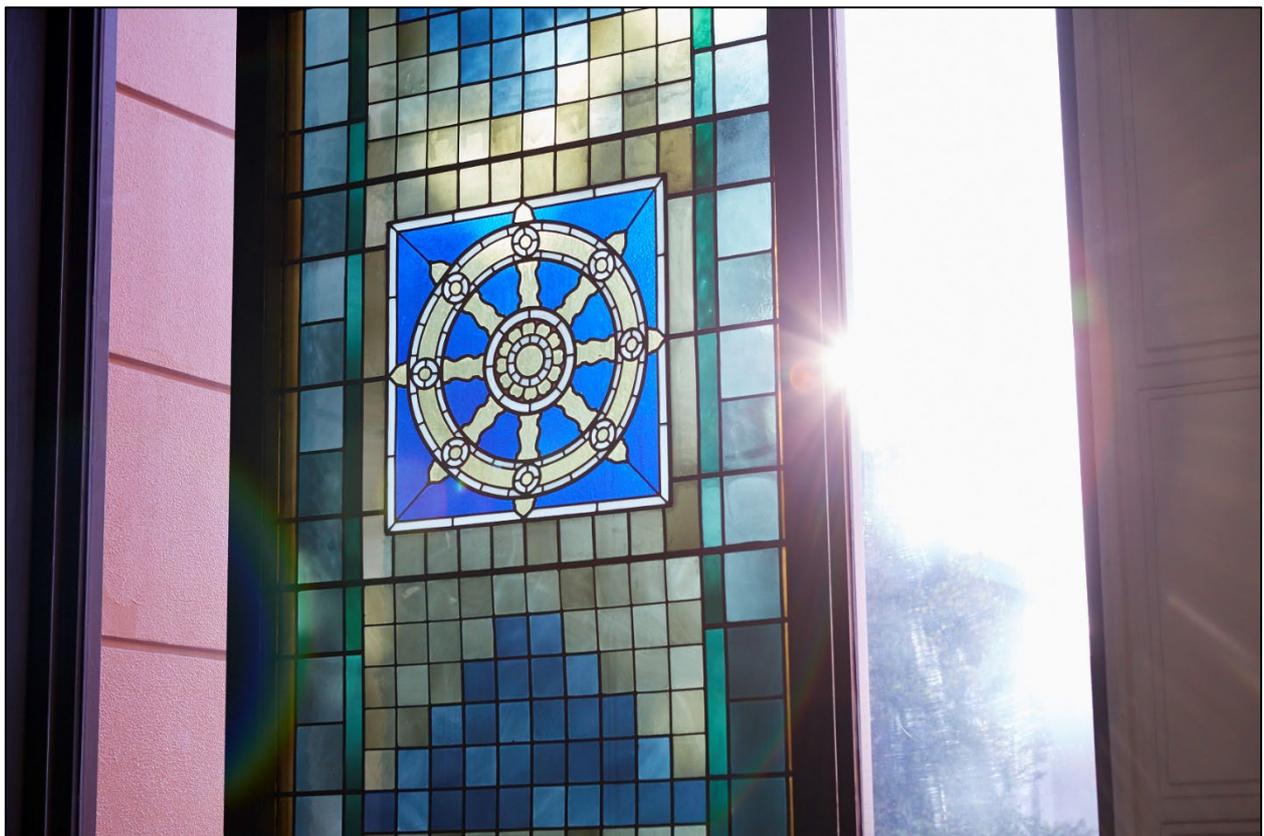
2023年度 駒澤大学における「SDGs」についての取り組み

駒澤大学では、「SDGs」に関連した取り組みを行っています。また教育活動、研究活動においても「SDGs」について取り扱い、その目指す社会の実現に向けて広く活動を行っています。

ここでは2023年度の本学の取り組みの一部を17の目標別に紹介します。

また、SDGsの一層の理解と活動のさらなる活性化に向けて、昨年度より本報告書とは別に「駒澤大学×SDGs 学生対象意識調査結果報告書」を発行しています。

本学ホームページにて公開していますのであわせてご覧ください。





特集 1：「駒澤大学×SDGs」と題したオンデマンド研修

駒澤大学では、「SDGs」の達成に向けて、教育・研究等の諸活動において様々な取り組みを行っています。多様な取り組みの根底にあるのは、本学の建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神です。

本学らしい「SDGs」のあり方について、学生・教職員が一層理解を深める機会とするとともに、本学の関係者の皆様にお伝えするツールとして、2023年3月より「駒澤大学×SDGs」と題してオンデマンド形式によるSDGs研修動画の配信を始めました。

2022年度中に2本、2023年度中に3本の動画を、本学公式YouTubeチャンネルにて、公開しました。

駒澤大学公式YouTubeチャンネル「駒澤大学×SDGs」

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLLO-a0WDbETEvt2AeLWLR79iUoRfpxaW>

「駒澤大学×SDGs」研修動画リスト

2022年度 SDGs 研修動画			
Vol.01	「仏教・禅とSDGs」	駒澤大学 総長 永井 政之	 「駒澤大学×SDGs Vol.1」駒澤大学 総長 永井 政之
Vol.02	「駒澤大学 SDGs 実行宣言」 ～大学としての取り組みについて～	駒澤大学長 各務 洋子	 「駒澤大学×SDGs Vol.2」駒澤大学長 各務 洋子



特集 1 : 「駒澤大学×SDGs」と題したオンデマンド研修

2023年度 SDGs 研修動画			
Vol.03	「ジェンダー平等を目指して」	文学部 教授 松信 ひろみ	 <p>SDGs研修 ジェンダー平等を目指して SDGs目標5 ジェンダー平等の実現 文学部社会学科 松信 ひろみ 2023.06.19 駒澤大学</p> <p>「駒澤大学×SDGs Vol.3」駒澤大学 文学部 教授 松信 ひろみ</p>
Vol.04	「駒澤大学の禅と社会活動」	仏教学部 教授 石井 清純	 <p>「駒澤大学×SDGs Vol.4」駒澤大学 仏教学部 教授 石井 清純</p>
Vol.05	「健全な人間生活は、健全な地球環境に宿る」	総合教育研究部 教授 清水 善和	 <p>「健全な人間生活は、健全な地球環境に宿る」 総合教育研究部自然科学部門 清水善和</p> <p>「駒澤大学×SDGs Vol.5」駒澤大学 総合教育研究部 教授 清水 善和</p>

駒澤大学公式YouTube : [@komazawauniv](https://www.youtube.com/komazawauniv)

駒澤大学×SDGs ▶ [すべて再生](#)

駒澤大学では、「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」の達成に向けて、教育・研究等の諸活動において様々な取り組みを行っています。駒澤大学が考える「SDGs...



「駒澤大学×SDGs Vol.1」駒澤大学 総長 永井 政之
駒澤大学 (Komazawa University...



「駒澤大学×SDGs Vol.2」駒澤大学長 各務 洋子
駒澤大学 (Komazawa University...



「駒澤大学×SDGs Vol.3」駒澤大学 文学部 教授 松信 ひろみ
駒澤大学 (Komazawa University...



「駒澤大学×SDGs Vol.4」駒澤大学 仏教学部 教授 石井 清純
駒澤大学 (Komazawa University...



「駒澤大学×SDGs Vol.5」駒澤大学 総合教育研究部 教授 清水 善和
駒澤大学 (Komazawa University...



特集 2 : ゼミによる「SDGsゼミ発表会」を開催

11月4日（土）、グローバル・メディア・スタディーズ学部の各務 洋子 ゼミと経済学部の松田 健 ゼミの学生が、「SDGsゼミ発表会」と題し、SDGs推進に関する研究活動の成果について発表を行いました。

この「SDGsゼミ発表会」は、大学生によるSDGs活動について生の声や実体験を伝えることにより、SDGs推進の機運を一層醸成することを目的に行われました。

イベントは大学祭「オータムフェスティバル」のプログラム「2024年度一般選抜対策講座」の一環として行われ、受験生や一般の方をはじめ70人以上の方にお越しいただき、大学やゼミの取り組みについてご関心をいただきました。

SDGs ゼミ発表会			
ゼミ名	チーム名	発表テーマ	SDGs 目標
グローバル・メディア・スタディーズ学部 各務 洋子 ゼミ	少子化チーム 「LocaRaise」	社会全体で子育てできる環境	
	環境チーム 「Planet」	生物多様性の損失を防ぐ	
	食品ロスチーム 「#ろすのんを救い隊」	「もったいない」をもう一度	
経済学部 松田 健ゼミ	B 班	ロスで教える未来のかたち	



1 貧困をなくそう



あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる

コロナ禍や物価上昇の影響を受けているすべての学生に対する支援プロジェクトについて

駒澤大学では、コロナ禍や物価上昇の影響を受けているすべての学生を対象として、食料品・生理用品支援（無料配付）を行っています。学内外から本プロジェクトに対していただいた寄付金を原資としているほか、ご賛同くださる企業・団体からも無償や特別価格での商品提供をいただいています。

食支援プロジェクト（2021年度からの継続事業）

第5弾「食べて、学んで、SDGs」：2023年7月19日（水）～21日（金）

駒澤大学による簡単なアンケート調査では93%もの学生が物価上昇の影響を感じており、大学では引き続き直接的支援を行いました。70,000食を超える食品を、3,438名の学生に無償配付しました。

実施には補助金や寄付金を活用したほか、多数の企業・団体様から無償あるいは特別価格での商品提供をいただきました。

さらに、学内外の個人の方からもAmazonほしい物リストを経由した現物寄付を頂戴しました。



《協力企業様・団体様（敬称略）》

大塚製薬株式会社、世田谷区、株式会社ニッポン、一般社団法人全国包装米飯協会、有限会社ドリームズ・ファーム、テーブルマーク株式会社、たいまつ食品株式会社、株式会社ギンビス、アイムライズ株式会社、平和食品工業株式会社、株式会社StockBase、株式会社大賀商店、吉良食品株式会社、カゴメ株式会社



食料品支援（中規模開催）5月

東京都が新型コロナウイルス自宅療養者への食料品宅配支援を終了したことに伴って生じた残余の食料品に対して、駒澤大学への無償提供を依頼しました。学生支援とフードロス防止を目的として、2回にわたり約30,000点の食料品を延べ2,649名の学生に配付しました。





1 貧困をなくそう



あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる

SDG:1を取り扱った授業

1 貧困をなくそう



専門教育科目	「企業と社会」
担当教員	村山 元理 (経営学部 経営学科)
概要	社会的企業家が途上国の貧困問題を解決するソーシャル・ビジネス、大手企業によるBOPビジネスなども扱った。そして、それを支える財団の支援の取り組みを考えた。
	

2 飢餓を
ゼロに



飢餓を終わらせ、食料安全保障及び
栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する

経営学部の中村公一ゼミが 「第3回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」で 審査員特別賞を受賞しました

経営学部の中村公一ゼミの学生（3年生・23期）が、10月26日（木）に、「第3回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」（主催：株式会社トリドールホールディングス）でファイナリストとして発表し、審査員特別賞を受賞しました。

同社は持続可能な社会の実現に向けてサステナブル活動の推進を目指しており、本コンテストには6大学13チームが参加しました。

中村ゼミからは2チームがファイナリストに選出され、最終報告会にて経営陣に発表しました。約半年間かけてプランを作成し、学生の視点からユニークな提案をまとめることができ、就職活動を前に、実際に企業の実践に触れたことは、学生にとってとても有意義な経験となりました。

コンテストの様子は、10月26日（木）放送のテレビ東京「WBS（ワールドビジネスサテライト）」の「国際認証じわり広がる 外食・食品の最新フードロス対策」のコーナーの中で取り上げられました。

※「トリドール持続可能ビジネスコンテスト」とは
「丸亀製麺」「コナズ珈琲」などを運営している株式会社トリドールホールディングスが、2022年3月より主催している大学生のソーシャルビジネスの課題解決力の育成を目的としたコンテスト。



2 飢餓を
ゼロに



飢餓を終わらせ、食料安全保障及び
栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する

SDG:2を取り扱った授業

2 飢餓を
ゼロに



専門教育科目	「演習Ⅱ」
担当教員	中村 公一（経営学部 経営学科）
概要	世田谷区フードロスコンテストへの参加 世田谷区が取り組んでいるフードロスの啓発に対するアイデアを考える。
  	



3 すべての人に
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

管理栄養士・公認スポーツ栄養士による栄養管理講習会を開催

第1回は7月10日（月）に深沢キャンパス120周年アカデミーホールにて、「スポーツ栄養やコンディショニングについて」をテーマに、管理栄養士・公認スポーツ栄養士の金剛地 舞妃先生による栄養管理講習会が行われました。

体育会に所属する新入生を中心に59人の学生が参加し、スポーツ栄養学とコンディショニングの実践法について、熱心に耳を傾けていました。



第2回は7月13日（木）に駒沢キャンパス種月館（3号館）1階学生食堂内個室にて、「暑さに負けない食生活、夏バテ防止、疲労対策など」をテーマに、管理栄養士・公認スポーツ栄養士の上木 明子先生による栄養管理講習会が行われました。

この取り組みは、駒澤大学カラダスマイルプログラムの一環として、保健管理センターと学生支援センターが共同で開催し、大塚製薬株式会社にご協力いただいています。

第3回は11月30日（木）に駒沢キャンパス種月館（3号館）9-912教場にて、「お肌のアップデート！+肌年齢測定」をテーマに、管理栄養士・公認スポーツ栄養士の金剛地 舞妃先生による栄養管理講習会が行われました。



3 すべての人に
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

「スポーツフェスティバル in 玉川 2023」

11月23日（木・祝）に、玉川キャンパスにおいて「スポーツフェスティバル in 玉川 2023」を開催しました。

このイベントは、世田谷区内の小中高生、一般の方などを対象に「大学と地域社会との交流」と「地域における共生社会の実現」を目的として毎年行われています。

当日は晴天に恵まれ、グラウンドや体育館等で学生アスリート指導によるスポーツ教室・体験会など、様々なイベントが行われました。空手道部、剣道部、硬式テニス部、少林寺拳法部、体操競技部、卓球部、競技ダンス部、ボクシング、男子ラクロス部、女子ラクロス部、サッカー部、洋弓部、ラグビーフットボール部などの学生団体が協力し、参加者の皆さまがさまざまな競技に挑戦しました。





あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

経営学部の小野瀬ゼミがACP(Advance Care Planning/人生会議)の普及啓発ポスターを作成しました。

小野瀬ゼミでは今年度、世田谷区、桜新町アーバンクリニック、株式会社メディヴァと共同してACPの普及啓発を目的としたポスター制作を行いました。

このプロジェクトは、人生の終末期において、家族や大切な人、医療・介護チームと「自分がどうしたいか」を共有するACPの重要性の高まりを受けて企画されたものです。

5月24日（水）、世田谷区の協力のもとで、桜新町アーバンクリニック 在宅医療部長の五味一英氏、看護師の尾山直子氏、株式会社メディヴァの神野真実氏をお招きし、ACPの理解を深めるための講義を行いました。

インフォグラフィックを用いた表現方法を応用し、世田谷区でのACP普及啓発のためのポスター制作活動に取り組みました。



制作された作品は、9月16日（土）に玉川区民会館「玉川せせらぎホール」で行われた「世田谷区在宅療養講演会」会場に展示され、来場した区民の方等による投票を経て、

齋藤 美月 さん（経営学部市場戦略学科2年）
長澤 志保里 さん（経営学部経営学科3年）、
南雲 美星夏 さん（経営学部市場戦略学科3年）
の3作品が選ばれました。



2024年1月23日（火）には、保坂 展人 世田谷区長にポスターをお渡ししました。また、保坂区長、世田谷区の皆さまと懇談の機会も設けられ、保坂区長からは労いのお言葉をいただいたほか、地域におけるACPの現状についても話し合われました。

ポスターは世田谷区各所に掲示されるほか、駒沢キャンパス種月館（3号館）2階ウィステリアで展示されました。



3 すべての人に
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

生涯学習について（健康づくり教室）

本学では、大学における研究と教育の成果を広く社会に還元し、また大学の施設を開放することにより、地域の皆さまの健康増進の一助となることを目的として、1984年4月から「健康づくり教室」を開講しています。

地域の皆さまのご要望によって新たに種目を取り入れるなど工夫を重ねながら、今日まで継続しております。

4/2(日)2023(令和5)年度第1期
開講

駒澤大学公開講座 募集締切 3/8(水)



健康づくり教室

令和5年度 4月より 駒澤大学公開講座健康づくり教室(第1期)を再開します。
下記QRコード または駒澤大学ホームページより、お手続きください。

【成人対象】ジョギング

ジョギングを一緒に始めてみませんか？多くの方がジョギングは健康に重要であることを知っています。でも、始められずきっかけが欲しい人、走り方がわからない人、もう少し長く走ってみたい人、などなど、様々な悩みがあるのではないのでしょうか？そこで、是非、一緒にジョギングを楽しみ、悩みを解決していきましょう！解決する方法を教えたいと思います。

講師：小山 桂史 (桐原横浜大学 スポーツ健康政策学部長教授/駒澤大学総合教育研究部 非常勤講師) ほかに

受講料：5,000円 定員：20名

【小学生対象】小学生の体操

マット・とび箱・鉄棒等の器械器具を使用して走る・跳ぶ・支える・回る等の基本的な運動の習得を目指し、様々なスポーツの基礎となる体力や運動能力を養い、子ども達の成長に必要な体力を身に付けます。また、子ども達自身が身体を動かす楽しさを体験できます。

講師：美濃部 さゆり (公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者)
田中 駿 (駒澤大学高校教諭) 久木 直哉 (駒澤大学総合教育研究部 非常勤講師) ほかに

受講料：4,000円 定員：30名

【成人対象】ゴルフレッスン会

ゴルフスイングのお悩み解決をしていきます。全4回の中で、フルショット、アプローチショット、パッティングの練習をしていきます。初心者の方も大歓迎です。

講師：原田 沙織 (一般社団法人日本女子プロゴルフ協会ティーチングプロ/駒澤大学総合教育研究部 非常勤講師)

受講料：8,000円 定員：12名

会場：駒澤大学玉川キャンパス グラウンド・体育館

開講日時：4/2日・4/9日・4/16日・4/23日の10:00~11:30 開場：9:30

【お問い合わせ】駒澤大学 深沢校舎事務室 公開講座担当

電話：03-3702-9625 FAX：03-3702-9626

(月～金：9時～17時※12時30分～13時30分は除く)

大学ホームページ



しなやかな、意思。
駒澤大学

後援/世田谷区教育委員会 駒澤大学 HP <https://www.komazawa-u.ac.jp/>

玉川キャンパス
〒157-0068
東京都世田谷区宇原 1-1-1
東急田園都市線「二子玉川」駅下車
が徒歩「徒歩約1分」

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



3 すべての人に
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

SDG:3を取り扱った授業



専門教育科目	「ジェンダー論」
担当教員	松信 ひろみ (文学部 社会学科 社会学専攻)
概要	SDGsにおけるジェンダー平等の概要についてゴール5のみでなく、その他のゴールでもジェンダー平等のターゲットが含まれることを解説した。
授業では、基本的に日本におけるジェンダー平等（格差）について説明をしているため、最終回において、世界的にジェンダー平等が求められていること、発展途上国と先進諸国でのジェンダー平等として求められている内容が異なることをSDGsのターゲットを使って説明した。	



専門教育科目	「演習Ⅰ・演習Ⅱ」
担当教員	小野瀬 拓 (経営学部 市場戦略学科)
概要	世田谷区、桜新町アーバンクリニック、株式会社メディヴァの皆様とともにACPポスターを制作した。
駒大生社会連携プロジェクトとして長期的に実施した。	



全学共通科目	「医療画像工学Ⅱ」
担当教員	村田 渉 (医療健康科学部)
概要	医療の質を向上させるための画像とは何かを考えさせる講義



専門教育科目	「演習Ⅰb」
担当教員	高 媛 (グローバル・メディア・スタディーズ学部)
概要	ゼミ活動の一環として動画制作に取り組んでいる。今年度は「公共広告」をテーマに、さまざまな社会問題に切り込むCMを4つ制作した。具体的なテーマは「ポイ捨て心理」、「フードロス」、「ヤングケアラー」、「メディア・リテラシー」である。完成動画は高ゼミの公式YouTubeチャンネル (https://www.youtube.com/user/gmskosemi) に、制作・編集のエピソードは高ゼミの公式ブログ (https://gmskosemi.seesaa.net/) にそれぞれ掲載し、一般社会に向けて情報発信を試みた。

3 すべての人に
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

SDG:3を取り扱った研究

3 すべての人に
健康と福祉を



教 員	小本 恵照 (経営学部 市場戦略学科)
研究テーマ	ウェルビーイングと企業家活動
<p>ウェルビーイングの概念の整理を行う中で、従業員および企業家のウェルビーイングに関する先行要因と結果に関する文献レビューを行った。それを踏まえ、企業家に関するウェルビーイング研究の課題について分析を加えた。</p>	

3 すべての人に
健康と福祉を



教 員	新井 知大 (医療健康科学部)
<p>令和5年度放射線健康管理・健康不安対策事業 (放射線の健康影響に係る研究調査事業) 診療放射線技師を対象とした放射線災害時におけるリスクコミュニケーションについての研修の体系化及び放射線災害時における診療放射線技師を活用した支援体制の構築に関する調査研究。風評被害を軽減するため、放射線災害時における診療放射線技師のリスクコミュニケーターとしての役割を強化するための研修体系を構築した。</p>	

SDG:3に関する教員の活動

3 すべての人に
健康と福祉を



教 員	新井 知大 (医療健康科学部)
<p>特定非営利活動法人肺がんCT検診認定機構による認定技師の認定事業 がん死亡を減少させるためには、有効ながん検診を正しく実施する必要がある。標準化された高い精度の低線量CT肺がん検診の普及を目指し、肺がんCT検診認定技師の認定事業を実施している。駒澤大学及び滋賀医科大学を試験会場として2023年7月15日 (土)、2023年12月2日 (土) に認定試験を実施し、要件を満たした診療放射線技師を「肺がんCT検診認定技師」として認定した。</p>	

3 すべての人に
健康と福祉を



教 員	村田 渉 (医療健康科学部)
<p>特定非営利活動法人Medical PLAY, 理事 医療体験に価値を持たせて小児医療の質を向上させるために、絵本「からだのなかをしゃしんでみると…!？」を作成し、出版に協力した。 https://www.laughcnt.com/products/detail/13</p>	



すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

禅文化歴史博物館が「福招きキラキラ禅寺ウォーキング」を開催

11月7日（火）、第15回ふれあい禅寺めぐり「福招きキラキラ禅寺ウォーキング」を実施しました。

今回のイベントは、約70年ぶりの博物館法改正により、「他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与」が求められたことも踏まえて実施したものです。

本学に所縁のある曹洞宗寺院を中心に、世田谷城を築いた吉良氏、江戸時代に世田谷を領有した井伊家や代官大場家に所縁のある寺社・史跡を巡って世田谷地域の歴史を学びました。

また、駒沢移転110周年の節目に、移転に深い係わりがあった旧玉川電気鉄道（玉電）の車両見学も通して、本学の歴史への知見を深めました。

< 訪問先 >

東急世田谷線宮の坂駅（旧玉電車両）、世田谷城址公園、大谿山豪徳寺、延命山勝光院、鶴松山実相院、世田谷八幡宮、世田谷代官屋敷、世田谷区立郷土資料館



4 質の高い教育を
みんなに

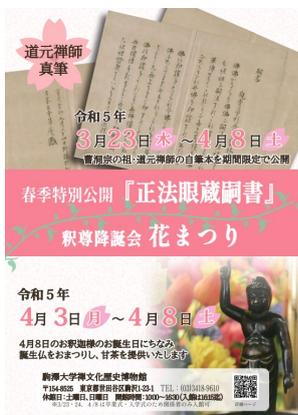


すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

生涯学習について（禅文化歴史博物館）

駒澤大学禅文化歴史博物館は、本学の特色を活かした禅（仏教・宗教）の文化、歴史を中心とする博物館とし、一般公開することにより、地域社会のみならず、広く世界へ向けて大学の情報を発信する基地としての役割を担っています。

- (2022.10/15～2023.3/24) 大学史特集展25 駒大140年のあゆみ一初公開！設置認可書一わくわくぜんぱく探検ジャー！
- (2022.12/15～2023.3/31) 開校140周年記念特別展示
「『正法眼蔵嗣書』の成立～草案本と修訂本」
- (2023.1/16～7/28) 特別公開「大涅槃図」
- (2023.2/16～27) 春季特別公開 「正法眼蔵嗣書」・花まつり
- (2023.3/23～4/8) 大学史特集展26 麻布から駒沢へ
- (2023.4/10～7/28) 企画展「黄檗禅と煎茶～黄檗三筆の墨蹟と煎茶道具～」
- (2023.5/15～7/21) 第43回禅博セミナー
「黄檗宗と日本文化～文人茶で楽しむ墨の薫り、茶の香り～」
- (2023.6/17) 『正法眼蔵嗣書』
草案本のレプリカ作製・クラウドファンディング（第2期）
- (2023.6/20～2024.2/20) ふれあい七夕まつり 2023
- (2023.7/6・7) 夏の子ども向けイベント「地獄・極楽・禅ぱ～く」
- (2023.8/1～8/5) 大学史特集展27 新収蔵速報展「駒澤大学校歌草稿」
- (2023.10.10～2024.6.28) 企画展「関東大震災と駒澤大学」
- (2023.10.10～2023.11.18) 秋季特別公開 道元禅師真筆『正法眼蔵嗣書』
- (2023.10/30～11/10) 特別公開「出山釈迦図」
- (2023.12.4～12.16) 第37回禅博実践セミナー「臘八坐禅」
- (2023.12/8) 第38回禅博実践セミナー「禅の食事体験」
- (2024.1.20)





すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

生涯学習について（公開講座）

駒澤大学では、大学における研究と教育の成果を広く社会に還元し、教養と文化の向上に寄与することを目的として、公開講座を開講しています。

前期公開講座

対面講座

- 4月22日（土）【禅の語録を読んでみる】
講師：小川 隆（総合教育研究部 外国語第二部門 教授）
- 5月27日（土）【徳川家康の江戸入府と関東領国経営】
講師：中野 達哉（文学部 歴史学科 教授）
- 6月17日（土）【大慧宗杲と宏智正覚 南宋初期に臨済宗と曹洞宗を担った禅の巨匠】
講師：佐藤 秀孝（仏教学部 禅学科 教授）
- 7月29日（土）【ケアの多文化化 一外国人介護従事者の語りを中心に】
講師：土田 久美子（文学部 社会学科 准教授）

オンデマンド配信講座

- 4月講座【恋愛文学と仏教】
講師：石井 公成（駒澤大学 名誉教授）
- 5月講座【徳川家康・堅忍果決の生涯 一戦国大名から将軍・大御所権力へ】
講師：久保田 昌希（駒澤大学 名誉教授）
- 6月講座【道元禅師の生涯と思想】
講師：石井 清純（仏教学部 禅学科 教授）
- 7月講座【持続可能な都市とまちづくり】
講師：西山 弘泰（文学部 地理学科 准教授）
土谷 敏治（文学部 地理学科 教授）
鈴木 重雄（文学部 地理学科 教授）
瀬戸 寿一（文学部 地理学科 准教授）

後期公開講座

対面講座

- 10月14日（土）【がん予防医療最前線 重たい1歩が“がん”早期発見を導く
—最新画像診断技術で検出向上—】
講師：奥山 康男（医療健康科学部 診療放射線技術科学科 教授）
- 11月18日（土）【人物で見る経済史 —宗教にコミットした企業家と財界人—】
講師：小野瀬 拓（経営学部 市場戦略学科 教授）
- 12月9日（土）【玄奘三蔵と『西遊記』
—孫悟空・猪八戒・沙悟浄のルーツを探る—】
講師：吉村 誠（仏教学部 仏教学科 教授）
- 1月20日（土）【神話と古代の出雲 —国生みと国引き—】
講師：瀧音 能之（文学部 歴史学科 教授）

オンデマンド配信講座

- 10月講座【会計情報に潜む嘘を見抜け！ ～公認会計士監査と不正～】
講師：田中 智徳（経営学部 経営学科 准教授）
- 11月講座【人物で見る経済史 —宗教にコミットした企業家と財界人—】
講師：小野瀬 拓（経営学部 市場戦略学科 教授）
村山 元理（経営学部 経営学科 教授）
- 12月講座【『般若心経』を読む】
講師：吉村 誠（仏教学部 仏教学科 教授）
- 1月講座【風土記からみる古代の出雲】
講師：佐藤 雄一（文学部 歴史学科 講師）
鈴木 織恵（文学部 歴史学科 非常勤講師/淑徳大学准教授）
舟久保 大輔（文学部 歴史学科 非常勤講師）





すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

夏休みこどもアカデミーの開催について

8月1日~8月31日に、小学生向けのプログラム「夏休みこどもアカデミー2023」
(無料プログラム)を開催しました。

親子体験教室 対象小学校3年生以上

8月2日(水) 【防護の勇者となれ! 「放射線お化けから身を守ろう!」
ゲーム体験講座】

講師: 近藤 啓介 (医療健康科学部 診療放射線技術科学科 准教授)
村田 渉 (医療健康科学部 診療放射線技術科学科 助教)

8月3日(木) 【世界の英語: 色々な英語を聞いて、まねしてみよう】

講師: 杉森 建太郎
(グローバル・メディア・スタディーズ学部 講師)

こどもセミナー 対象 小学校5年生以上・中学生

8月3日(木) 【土偶ってなんだろう? 一縄文時代の人々の祈り】

講師: 寺前 直人 (文学部 歴史学科 教授)

オンデマンド配信講座 配信期間 8月1日~8月31日

講座1 【お盆って、なあに?】 講師: 徳野 崇行 (仏教学部 仏教学科 准教授)

講座2 【東京湾の海苔ものがたり】 講師: 菅野 洋介 (文学部 歴史学科 准教授)

講座3 【初恋の味ってどんな味?】 講師: 小野瀬 拓 (経営学部 市場戦略学科 教授)

講座4 【磁石のチカラは、こんなにすごい!】

講師: 村田 渉 (医療健康科学部
診療放射線技術科学科 助教)

駒澤大学は令和4年度より、東京都が推進する「こどもスマイルムーブメント」に
参画し、社会連携・社会貢献に取り組んでいます。当イベントは禅文化歴史博物館
開催サマーミュージアム「地獄・極楽・禅ぱ~く」とともに「こどもスマイルムーブ
メント」で行われた「こどもスマイル大冒険」の1つとして実施しました。





すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

教職員・参禅部有志が「おきたま・ふくしま寺子屋」を開催

仏教学部禅学科の石井 清純教授の研究室に本部を置く任意団体「こども育成支援置賜学舎」では、東日本大震災によって避難し仮住まいすることを余儀なくされた児童・生徒の学習支援を行うために山形県米沢市で活動を行っています。この活動の母体は、仏教学部仏教学科の藤井 淳教授が中心となって活動していた山形大学の「寺子屋こども大学」であり、「こども育成支援置賜学舎」はその支部という形で発した団体です。活動に際しては、以下の団体から支援を受けています。

<行政機関>

- 避難者支援センターおいで（米沢市危機管理室）
- 米沢市教育委員会
- 復興ボランティア支援センターやまがた
- 山形県こころのケア事業（臨床心理士の派遣）

<資金補助>

- 全日本仏教会
- 曹洞宗宗務庁復興支援室福島分室

石井 清純教授をはじめとした本学の教職員と参禅部の有志は、8月1日（火）から3日（木）には春日山林泉寺（米沢市）において「復活置賜学舎夏休み寺子屋」、12月26日（火）及び27日（水）には簗本山舘山寺（米沢市）において「おきたま・ふくしま冬休み寺子屋」を開催しました。



4 質の高い教育を
みんなに



すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

SDG:4を取り扱った授業

4 質の高い教育を
みんなに



専門教育科目	「考古学発掘実習Ⅰ」
担当教員	藤野 一之 (文学部 歴史学科 考古学専攻)
概要	自治体と協力した校外実習の実施
埼玉県毛呂山町所在の川角古墳群について、毛呂山町と連携して測量調査を実施した。	
 	

4 質の高い教育を
みんなに



専門教育科目	「考古学発掘実習Ⅱ」
担当教員	藤野 一之 (文学部 歴史学科 考古学専攻)
概要	自治体と協力した校外実習の実施
埼玉県鳩山町所在の国史跡新沼窠跡について、鳩山町と連携して確認調査を実施した。	
 	

4 質の高い教育を
みんなに



専門教育科目	「発掘実践実習」
担当教員	藤野 一之 (文学部 歴史学科 考古学専攻)
概要	文化資源(埼玉県川角古墳群)を活かした地域魅力の発見と発信
地域に眠る文化資源の活用と、地域魅力の発信を目的として、埼玉県毛呂山町の川角古墳群を対象として、これまでの測量調査の成果と歴史的意義について毛呂山町・駒澤大学にてパネル展示した。	
 	

4 質の高い教育を
みんなに



専門教育科目	「数学序論A」
担当教員	村田 渉 (医療健康科学部)
概要	数学の医療への活用
数学が苦手な学生になぜ学ばなければいけないのかの動機づけ	
 	

4 質の高い教育を
みんなに



すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

SDG:4を取り扱った授業



専門教育科目	「基礎演習」
担当教員	アシュウェル ティム (グローバル・メディア・スタディーズ学部)
概要	言語に関するテーマについて発表する際、SDGsとどう繋がっているのか説明することを求めた。
発表は4回実施し、各回のテーマはどのようにSDGsと関わっているのか考えさせた。	



全学共通科目	「子どもと文化発展（２）」
担当教員	内藤 寿子 (総合教育研究部 日本文化部門)
概要	多文化共生について、絵本を題材に考える。
<p>点訳絵本、アイヌ文化に関わる絵本、アメリカの公民権運動に関わる絵本、在日外国人の子どものための絵本、ジェンダー平等に関わる絵本などを通して、日本社会の現状や歴史について考察を行なった。</p>	

4 質の高い教育を
みんなに



すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

SDG:4を取り扱った研究



教 員	村田 渉 (医療健康科学部)
研究テーマ	自作型放射線学習支援教材を活用したリテラシー教育の実践と普及
<p>自作型放射線学習支援教材を活用して、放射線リテラシーを向上させる取り組みとその評価をした。</p> <p>放射線は医療・産業・エネルギーなど広く活用されており、災害などとの関連性も高い。正しい知識素養を身につけることで風評被害等を払拭する。自作型放射線学習支援教材を活用して、放射線リテラシーを向上させる取り組みとその評価を行った。放射線は医療、産業、エネルギー分野で広く活用されており、災害などとの関連性が高い。正しい知識と素養を身につけることで、風評被害などを払拭することができる。</p>	
   	



教 員	内藤 寿子 (総合教育研究部 日本文化部門)
研究テーマ	地域における在日外国人の子どもへの教育支援活動
<p>日本社会における教育機会の平等などを実現するための実践活動</p> <p>地域における在日外国人の子どもへの教育支援活動を通して、現代社会における子どもの人権の確立や教育機会の平等などをを目指す。</p>	
 	

SDG:4に関する教員の活動



教 員	西山弘泰 (文学部 地理学科 地域文化研究専攻)
<p>西口懇談会 主宰 (任意団体)</p> <p>宇都宮駅前やその近傍を流れる田川において、学生主体のまちづくりを行っている。地域の企業や自治会、NPO、政治家、行政、市民が参加し、学生の活動を応援する組織である。2023年度は田川での花見イベント、宇都宮駅西口ペDESTリアンデッキでのイベント (ペデフェス!) 等を実施した。</p>	
  	

4 質の高い教育を
みんなに



すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

SDG:4に関する教員の活動

4 質の高い教育を
みんなに



教 員 近藤 啓介 (医療健康科学部)

ブラックボックスコンテスト

放射線画像の解析技術を競う大会

2023年9月9日、駒澤大学、対面、大学生（4大学15チームが参加）、ブラックボックスに封印された3種類各9個の立方体をX線画像から位置と種類を解析する。より少ない画像で正確性と解析時間を競う競技。診療放射線技師を目指す学生が「自ら考え行動する」教育方法として大会を開催する。この大会に向けて学生が積極的に放射線の知識や技術を修得する手助けを期待している。



4 質の高い教育を
みんなに



教 員 村田 渉 (医療健康科学部)

ぐるぐるプロジェクト

放射線の風評被害払拭を目的としたドラマ部門にエントリーした。

<https://www.env.go.jp/chemi/rhm/portal/communicate/college/r5.html>



4 質の高い教育を
みんなに



教 員 村田 渉 (医療健康科学部)

放射線教材コンテスト

放射線教材の作成。放射線リテラシー向上に資するべく、教材作成を指導し、コンテストにエントリーした。



4 質の高い教育を
みんなに



教 員 内藤 寿子 (総合教育研究部 日本文化部門)

世田谷区立教育総合センター STEAM教育ワークショップ講師

世田谷区在住の小学生のための講座をとおして、現代社会における子どもの人権の確立や教育機会の平等などを目指す。



ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う

ダイバーシティ推進本部を設置

駒澤大学では、「ダイバーシティの尊重による個を活かす大学」の具体化および実現を図るため、松信ひろみ学長補佐（ダイバーシティ推進担当）を座長として、ダイバーシティ推進本部を設置しました。2022年度に策定した「駒澤大学ダイバーシティ推進に関する基本方針」及び「ダイバーシティ推進に係る中期的な施策案」に則り、学生・教職員の意識啓発を目的とした事業や学内外への情報発信等を行うことを目的としています。

今年度は、主なダイバーシティ推進事業として2回の学内研修会を開催しました。

第1回「LGBTQについて考えてみようー学生によるダイバーシティ研修会ー」

7月10日（月）、文学部社会学科の松信ひろみゼミの4年生が、本学の学生・教職員を対象に「LGBTQについて考えてみよう！ー学生によるダイバーシティ研修会ー」（駒澤大学ダイバーシティ推進本部主催）を実施しました。

松信ゼミでは、世田谷区内の中学校へセクシュアル・マイノリティの出前講座を行うために、3年次にセクシュアル・マイノリティの当事者の方々にインタビュー調査を行いました。今回の研修会では、出前講座のために作成した資料を使って発表を行い、発表後には多数の質疑が寄せられました。



第2回「駒澤大学生の学生生活・多様性に関するアンケート調査報告」

12月19日（火）、駒沢キャンパスにて経済学部の村松幹二教授が教職員を対象に、「駒澤大学生の学生生活・多様性に関するアンケート調査報告」（駒澤大学ダイバーシティ推進本部主催）を実施しました。



5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女性のエンパワーメントを行う

文学部社会学科の松信ひろみゼミが 「東京レインボープライド2023」にボランティアとして参加しました

文学部社会学科の松信ひろみゼミの3年生が、4月22日（土）、23日（日）に代々木公園イベント広場で開催された「東京レインボープライド2023」のプライドフェスティバルにボランティアとして参加しました。

このイベントはセクシュアル・マイノリティの方の権利主張の祭典で、今年度は3年ぶりに全対面開催となりました。2日間で24万人が参加し、23日のパレードでは、40団体、1万人が参加する盛大なイベントとなりました。



松信ゼミの学生はボランティアとして参加し、物販、サポーター、パレードなど様々なセッションでボランティアとして活動しました。



文学部社会学科の松信ひろみゼミが 「セクシャル・マイノリティ」に関する出前講座を実施しました

2024年1月13日、文学部社会学科の松信ひろみゼミの4年生が、世田谷区立世田谷中学校でセクシャル・マイノリティに関する出前講座を行いました。

この講座は、中学生にセクシャル・マイノリティやLGBTQに関する知識を伝え、理解を深めてもらうことを目的として行われたものでした。出前講座を行った学生たちは、中学生に分かり易く伝えるためにどのような工夫をしたらよいか議論を続けながら、講座の構成やスライドを作り上げました。基本的な知識を説明するだけでなく、この課題について中学生が「自分ごと」として考える機会をつくることのできる内容となりました。

中学生に学びの機会を提供できたと同時に、一昨年からインタビュー取材を行い、研究や研修を重ねてきたゼミ生にとっても貴重な経験となりました。





ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女性のエンパワーメントを行う

ジェンダーギャップの解消を目指し 「生理を理解しようとするセミナー」を実施

本学では2021年から「生理用品支援プロジェクト」を実施しています。これまでに企業等の協力を得て生理用ナプキンの無料配布を複数回にわたって行ったほか、学内のトイレに生理用ナプキンの無料ディスペンサー「OiTr」（オイテル）を設置しています。

このような支援活動が続ける中で、経済的困窮のみならず「周囲からの無理解」といった課題が大きいことを認識しました。学生からも「男性にも生理について知ってほしい」という具体的な声があったことから、生理用品支援プロジェクトを発展させる形で、11月6日に「生理を理解しようとするセミナー」を開催しました。

当日は、学校医の松本純子医師を講師として迎えて、多くのデータや調査結果を用いながら、月経周期・ホルモン変化・病気・対処方法・関連制度等について詳細に解説していただきました。参加した約30名の学生及び教職員は、自身や身近な人を思い浮かべながら熱心に話を聞いていました。

生理を理解しようとするセミナー

11/6 月 10:40~11:40 @3-205教場
講師：松本 純子 先生（駒澤大学 学校医）
※ ライブ配信URLはKONECOを参照

生理がある人、ない人、軽い人、重い人。
生理にまつわる症状・病気・機会損失について
みんなで考えてみませんか？

- 男性にもっと知ってほしい 86.3%
- いちどに4日~7日間 生涯で450回
- ひと月500円~1200円 生涯に40万円かかる
- 鎮痛剤をつかう 76.3%
- ジェンダーギャップ 125位
- 家族や友人に相談しにくい 外出を諦めるしかない
- 生理の重さと出世が関係しているとおもう 56.9%
- 月経困難症 800万人
- 女性同士でも理解しあえるとは限らないとおもう 83.5%

駒澤大学
カラダ
スマイル
プログラム

学生支援センター・保健管理センター 共催



5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女性のエンパワーメントを行う

SDG:5を取り扱った授業

5 ジェンダー平等を
実現しよう



専門教育科目	「基礎国文学Ⅱ」
担当教員	倉田 容子 (文学部 国文学科)
概要	日本近代文学におけるジェンダー表象
日本近代文学を読み解き、近代家族制度や公娼制度の歴史について学びながら、ジェンダー表象について検討を行った。	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



専門教育科目	「社会学専門演習Ⅱ」
担当教員	松信 ひろみ (文学部 社会学科 社会学専攻)
概要	セクシュアル・マイノリティの現状についてインタビュー調査を行った。なお、セクシュアル・マイノリティについては、ジェンダー平等のターゲットには含まれておらず、SDGsの全般に含まれる「誰一人取り残さない」とされている。

5 ジェンダー平等を
実現しよう



専門教育科目	「憲法」
担当教員	三宅 雄彦 (法学部 法律学科)
概要	婚姻の自由・婚姻制度
日本国憲法24条で保障される婚姻の自由及び婚姻・家族制度の保障において、家族構成員の個人の尊重や夫婦の本質的平等の実現について検討した。	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



専門教育科目	「比較憲法」
担当教員	三宅 雄彦 (法学部 法律学科)
概要	婚姻制度
合計で7回分の講義で、日本国憲法24条とドイツ基本法6条、最高裁判所とドイツ連邦憲法裁判所の判例の比較をし、夫婦の実質的平等の実現、日独における性的マイノリティ（性同一性障害者、同性愛者、インターセックスなど）の人権保障のあり方について検討を加えた。	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女兒のエンパワーメントを行う

SDG:5を取り扱った授業

5 ジェンダー平等を
実現しよう



専門教育科目	「消費者行動論」
担当教員	菅野 佐織 (経営学部 市場戦略学科)
概要	ジェンダーと消費者行動
ジェンダー平等を目指した企業のマーケティング戦略について講義を行った。	
    	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



全学共通科目	「スポーツ科学で学ぶ教養」
担当教員	末次 美樹 (総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門)
概要	スポーツにおける男女格差や地域格差について
  	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



全学共通科目	「教養特殊講義」
担当教員	末次 美樹 (総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門)
概要	スポーツにおける理不尽・男女格差・地域格差について
   	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女兒のエンパワメントを行う

SDG:5を取り扱った研究

5 ジェンダー平等を
実現しよう



教 員	倉田 容子 (文学部 国文学科)
研究テーマ	日本近現代文学における親密性の表象
ジェンダー／セクシュアリティを視座とした近現代文学研究 近代家族を支えてきたジェンダー規範や異性愛規範を離れた地点で、作家たちがどのように親密性を描き出してきたのか検討した。	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



教 員	松信 ひろみ (文学部 社会学科 社会学専攻)
研究テーマ	女性のエンパワメント
女性のエンパワメントという観点から夫婦のパワー関係を考察した。	

5 ジェンダー平等を
実現しよう



教 員	三宅 雄彦 (法学部 法律学科)
研究テーマ	憲法条項と憲法判例における婚姻概念の日独比較
憲法条項と憲法判例における婚姻概念の日独比較 日本国憲法24条とドイツ基本法6条、最高裁判所とドイツ連邦憲法裁判所の諸判決を素材として、憲法条項と憲法判例における日独の婚姻概念を比較し、それにより人権保障にどのような差異が生じているかを検討した。	

6 安全な水とトイレ
を世界中に



すべての人々の水と衛生の利用可能性と
持続可能な管理を確保する

ウォーターサーバーを設置しました

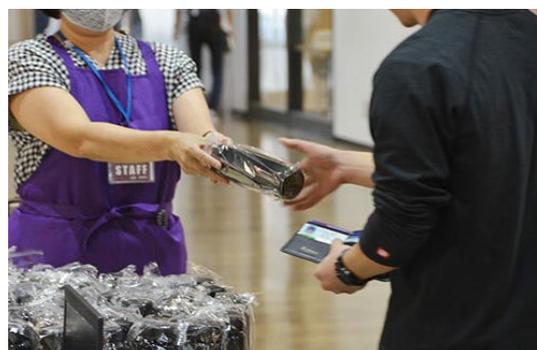
安全な水へのアクセスとマイボトル利用による使い捨てペットボトル削減を推進するために、駒沢キャンパス内に2台のウォーターサーバーを設置しました。



在学生を対象にリユースボトルの無料配布を実施しました

10月3日（火）～10月5日（木）の期間、在学生を対象にマイボトルの無料配付を実施しました。今回はドリンクウェアブランド「RIVERS」などを手掛ける株式会社リバーズ（世田谷区駒沢）にご協力いただき、リユースボトルを3,971人の学生に無料配付しました。また、株式会社リバーズのご厚意により、数量限定で教職員等にも配付しました。

この取り組みは、今年7月に実施した学生に対する健康支援やウォーターサーバー利用促進の取り組みに、同社からの共感を得たことがきっかけとなり実施されました。このように学生生活におけるマイボトル利用を促進することにより、健康増進と使い捨てボトルの削減が期待されます。





すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

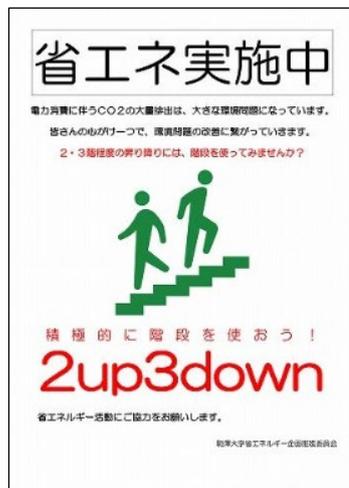
本学の省エネルギー対策について

駒澤大学では、省エネルギー企画推進委員会において、年間の省エネルギー対策の取り組みを策定しています。1年を通して省エネ対策を継続的に実施し、個々人の意識的な参加が必要な取組みについて、教職員・学生に周知しています。

2023年度 省エネルギーへの取り組みについて

1	エアコンの設定	<p>原則として、冷房温度26°C、暖房温度22°C設定とする（各研究室も対象とする）。また、空調フィルターの定期的な清掃を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷房：冷房運転時は、空調設定温度26°C（室内温度は28°C）目安とする。 ・暖房：暖房運転時は、空調設定温度20°C（室内温度は22°C）目安とする。 ・運転時間：8時30分～21時10分（事務室系統は18時まで） ※夏季休業中は8時45分～17時 ・エネルギー使用量の抑制を図るため、積極的にクールビズおよびウォームビズ※に取り組む。 ※室温に合わせて、上着や機能性下着等で調整すること。
2	エアコン・照明等の電源管理	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅および長時間離席の際、エアコンおよび照明の電源を切る。 ・使用していないエアコンおよび照明をこまめに消すことを励行する。
3	教場利用	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率の良い種月館（3号館）への教場利用の集約を推進する。 ・サークル等に貸し出す際は、フロアごとに集約するなど、建物使用部分の制限・集約を進める。
4	パソコンの電源管理	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時は、パソコンとモニターの電源を切る。 ・長時間離席する際は、スリープモードを設定する。
5	待機電力の節電	<p>使用していない機器の待機電力の削減を図る。 ※長期休暇前などは意識的に節電する 例）パソコン・モニター・プリンター・電話機子機・各機器の充電等</p>
6	AV教場ディスプレイの節電	<p>使用していないときは電源を切る。 固定表示を映し続けないようにする（非常勤教員へも周知する）。</p>
7	電化製品の使用禁止（部室も含む）	<p>電子レンジ・電気ポット等の電気容量の多い電化製品の使用は、『研究館使用要領』に基づき禁止とする。</p>

8	ピーク時電力の対応	平日の特に電力が不足する時間帯(13時~16時)について、数値が大幅に上がった場合、1次警報・2次警報と制御がかかり、授業等に影響の出ない箇所から空調を調整する。
9	トイレの節電 ※夏季期間のみ	・温水洗浄便座の暖房便座と温水洗浄機能（冷水は可）を停止する。
10	エレベーターの利用制限	・大学会館246・深沢校舎は2台中1台を停止する ・第2研究館・法科大学院は2台中1台、種月館（3号館）は3台中1台（7号館側）を停止する ※エレベーターが1台のみの建物では停止しない
11	種月館（3号館）エスカレーター の停止	・夏季休業中や2月以降、5階以上の稼働を停止。 但し、入学者選抜等利用時は除く。 （エスカレーター1台1hあたり10分使用 40.0kw~53.3kw）
12	使用電力の確認	・各事務部署の電力使用状況を確認し、節電の徹底や職場環境の把握を行うため巡回を実施する。
13	ノー残業デーの活用	・周囲へ呼び掛け、ノー残業デーの実施に積極的に取り組む。
14	階段利用の推奨	・エレベーター使用に際して、「2up 3down」に継続的に取り組む。





すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

SDG:7に関する教員の活動



教員	李妍焱（文学部 社会学科 社会学専攻）
一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト理事 一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト理事 農薬問題や再生可能なエネルギーに関する市民活動に対して助成と伴走支援を実施する団体である。	
12 つくる責任 つかう責任 	15 陸の豊かさを 守ろう
17 パートナシップで 目標を達成しよう 	

8 働きがいも
経済成長も



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

学校法人駒澤大学フェローによる講演会について

学校法人駒澤大学では、2022年度に学校法人駒澤大学フェロー制度を新たに設け、2022年10月に、元財務省関東財務局長の古谷 雅彦 氏をフェローとして招きました。広く一般の方に高い教養の学びの場を提供し、社会に資するため、今年度も古谷氏による教育・学術等に関わる講演会を開催しました。



【第2回】 「2023年資産形成～貯蓄も投資も～」

日時：2023年2月18日（土）

13：00～14：30

開場：深沢キャンパス120周年アカデミーホール



【第3回】 「日本経済はなぜ眠っているのか」

日時：2023年7月8日（土）

13：00～14：30

開場：深沢キャンパス120周年アカデミーホール



【第4回】 「年収の壁とガラスの天井」

日時：2023年12月9日（土）

13：00～14：30

開場：駒沢キャンパス種月館（3号館）3-207教場





包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

学校法人駒澤大学フェローの古谷雅彦氏が 「世田谷シニアスクール」の講座に登壇しました

6月6日（火）、駒沢キャンパス記念講堂で開催された「世田谷シニアスクール」の講座に、学校法人駒澤大学のフェローである古谷雅彦氏が登壇し、「日本経済はいま」というテーマで講演しました。

「世田谷シニアスクール」とは、世田谷区のシニア層の方々が運営し、大学などの施設を利用して講義を行うプログラムです。駒澤大学では2010年度以降、地域連携の一環として講師の紹介と施設の貸出を行っています。

当日は約160人が参加し、古谷氏の最新のデータを基にした講義を熱心にメモを取りながら聞く姿が多く見られました。



8 働きがいも
経済成長も



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

SDG:8を取り扱った授業

8 働きがいも
経済成長も

専門教育科目	「企業管理論 a」
担当教員	岩波 文孝（経済学部 現代応用経済学科）
概要	人的資源管理の歴史的展開と機能 【労働のフレキシビリティ、雇用の多様化、人材のグローバル化】

8 働きがいも
経済成長も

専門教育科目	「経営労務論」
担当教員	鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科）
概要	適正な労働条件と働きがい

8 働きがいも
経済成長も

専門教育科目	「演習Ⅰ」
担当教員	鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科）
概要	ドイツの経済と環境対策

8 働きがいも
経済成長も

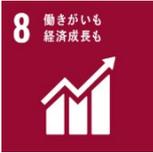
専門教育科目	「演習Ⅱ」
担当教員	鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科）
概要	資本主義の限界と可能性

8 働きがいも
経済成長も



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

SDG:8を取り扱った授業



専門教育科目	「演習Ⅲ」
担当教員	鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科）
概要	トランスジェンダーの労働環境

SDG:8を取り扱った研究



教員	鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科）
研究テーマ	ワークライフバランス
人事評価の納得性	



教員	小本 恵照（経営学部 市場戦略学科）
研究テーマ	開業動機が職務満足度に与える影響
フランチャイズを利用した開業者を開業動機によって類型化し、開業後の職務満足への影響を分析した。	



強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び
イノベーションの推進を図る

駒澤大学「データサイエンス・AI教育プログラム」が 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 （リテラシーレベル）」に認定

本学の全学部対象の教育プログラム「データサイエンス・AI教育プログラム」が令和5年度 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されました。

文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励することにより、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的とする制度です。

駒澤大学では、多様な価値観や知に触れる教育を大切にしており、この理念を活かすために、さまざまな学部・学科の専門教育までつながる全学部の学生を対象としたデータサイエンス・AI教育プログラムを設置しています。

データサイエンス・AI教育プログラムを修了すると、レベルに応じた修了証とオープンバッジが授与されます。



文部科学省認定ロゴマーク(認定の有効期限:令和10年3月31日まで)



データサイエンス・AI教育プログラム
リテラシーレベル

本学オープンバッジ



強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び
イノベーションの推進を図る

資料のデジタル・アーカイブ化 ZX（ゼンパク・トランスフォーメーション）推進

新型コロナウイルスの感染症拡大による対面活動の制約、約70年ぶりの博物館法改正で「資料のデジタル・アーカイブ化」が博物館事業に新たに追加されることを受けて、禅文化歴史博物館では博物館資料のデジタル・アーカイブ化と公開資料の一層の充実を進めています。博物館内にWi-Fiを整備して、BYOD（Bring Your Own Device）による鑑賞の充実も図りました。

Google Arts & Cultureによる公開資料やYouTubeで公開している動画等、豊富にコンテンツを揃えております。リアルでもオンラインでも、日常的に禅博に触れてもらうことで、生活に潤いと豊かさ、愉しさを感じてもらえるようにしています。

Google Arts & Culture 公開

世界中の文化遺産をオンラインで紹介するためにGoogle社が文化施設向けに無料で提供している「Google Arts & Culture」に本学もパートナー登録をしており、禅文化歴史博物館が所蔵する資料が公開されています。

[Google Arts & Culture](https://artsandculture.google.com/partner/the-museum-of-zen-culture-and-history-komazawa-university)

（日本語）<https://artsandculture.google.com/partner/the-museum-of-zen-culture-and-history-komazawa-university>

（英語）<https://artsandculture.google.com/partner/the-museum-of-zen-culture-and-history-komazawa-university?hl=en>



YouTube 公開

YouTubeチャンネルを開設して、博物館資料の解説動画の公開、セミナーやイベントのライブ配信を実施しています。

[禅博チャンネル](https://www.youtube.com/禅博チャンネル)

<https://www.youtube.com/禅博チャンネル>





強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び
イノベーションの推進を図る

医療健康科学部の学生チームが 「2023年度放射線教材コンテスト」で最優秀賞

医療健康科学部の学生チーム「ラジエーションサークル」（指導教員：医療健康科学部 近藤 啓介 准教授、村田 渉 助教）が、「2023年度放射線教材コンテスト」にて最優秀賞を受賞しました。

「ラジエーションサークル」は、作品名「見て動かしてわかる！放射線からの身の守り方」を発表し、1次審査・2次審査・最終審査の結果、見事栄冠に輝きました。この快挙は、本学において昨年に引き続き2年連続となります。

12月27日（水）の「放射線教育発表会」では、作品のプレゼンテーションと表彰式が開催され、当日の参加者の投票により選ばれる日本科学技術振興財団理事長賞も同時に受賞いたしました。

放射線教材コンテストとは、公益財団法人日本科学技術振興財団が主催し、小学校・中学校・高等学校の理科教育に「放射線」が導入されたことに合わせて、大学生に「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ったアクティブ・ラーニング教材や、放射線について学ぶ児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育む教材を考えてもらおうと2018年度から開催されています。毎年、教員を目指す教育学部系や放射線を専門に扱う医学部・薬学部・工学部、診療放射線技師を育成する学部の学生チームが受賞しています。





強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び
イノベーションの推進を図る

医療健康科学部の志村・近藤ゼミの学生チームが 「第5回ブラックボックスコンテスト」で優勝

医療健康科学部 志村 一男・近藤 啓介 ゼミの 廣田 優奈 さん（医療健康科学部診療放射線技術科学科4年）、赤池 俊輔 さん（医療健康科学部診療放射線技術科学科4年）、横田 光輝 さん（医療健康科学部診療放射線技術科学科3年）のチームが、「2023年度第5回ブラックボックスコンテスト」で優勝しました。

この大会は、X線画像の画像解析を競う大会で、専門知識を利用した創造力や考察力、そしてチーム力を育成することを目的としています。同チームは、120点満点中109点を得点し、4大学15チームの中から優勝しました。



受賞チーム





強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び
イノベーションの推進を図る

経営学部の菅野佐織ゼミが 「Sカレ（Student Innovation College）2023」でプラン優勝

経営学部の菅野佐織ゼミが、12月9日（土）に近畿大学にて開催された「Sカレ（Student Innovation College）2023」でプラン優勝しました。

この大会は、大学3年生が商品企画をして実際に商品化を目指す、大学ゼミ対抗のインターカレッジ（産学連携プロジェクト）です。今年は32大学38ゼミ552人が参加し、9つの企業が設定した企画テーマについて企画提案をしました。

菅野ゼミからは、ニチレイマグネット株式会社の『マンションで使う磁石商品』というテーマから、石井 涼さん（経営学部 市場戦略学科 3年）、川崎 大輝さん（経営学部 市場戦略学科 3年）、神 飛雅さん（経営学部 市場戦略学科 3年）のチームがプラン優勝を果たし、商品化されることとなりました。

同チームは近年のフードデリバリー需要の高まりに対して、主に一人暮らしの女性をターゲットとして商品を安心して受け取るための、マンションドアに磁石で簡単に貼ることができるデリバリーボックスをコンセプトとした「置き配ボックス」を提案しました。



菅野ゼミのプラン優勝チーム



発表の様子



提案した折りたたみ式の置き配ボックス



強力なマグネットで2kgまでの商品が入られる



「駒澤大学障がい学生支援方針」について

禅・仏教の精神に則って教育を行う駒澤大学では、思いやりの心と学生相互が尊敬し合うという精神を重んじます。この精神に立って、障がいに基づく一切の差別をなくし、すべての学生が平等な教育の機会を享受できる大学環境づくりを進め、差別のない平等な機会を提供するために、以下の基本方針をもって障がい学生支援を行います。

1. 障がい学生とそれを支援する学生がともに学べる環境をつくり、お互い真心を傾け、お互いを敬い、慈しみの心を持って人を大切にする教育を目指します。
2. 本学の全構成員（教職員・学生）が意識を高め、障がい学生に対して開かれた大学を目指します。
3. 障がい学生の皆さんが主体的に充実した学生生活を送ることができ、社会に出てからも堂々と支援を要請でき、自立した生活を送ることができる力を養成します。

その支援を行うにあたり、障がい学生一人ひとりのニーズを的確に把握し、入学、学生生活、卒業、就職、生涯の生活能力までを視野に入れた総合的な支援を行うことが大切です。

支援が場当たりのものや個人的な対応にならないよう一貫性のある組織的な対応が必要となります。そこで関係者や関連部署が支援を必要とする学生の情報を共有し協力しながら対応してまいります。

駒澤大学では、障がい学生をサポートする学生スタッフ（ピアサポーター）が多数活躍しています。障がい学生支援ピアサポーターの活動は主に以下の4つです。
 ※障がい学生の在籍状況により、現在実施していない支援もあります。

ピアサポーターの活動内容

1	ノートテイク	<p>2人のピアサポーターがペアになって聴覚障がい学生とともに授業に出席し、講義内容をリアルタイムで伝える活動です。</p> <p>講義やチャイムなどすべての音情報を文字に起こすことで、障がい学生がその他の学生と同等の情報が得られるようにサポートします（=情報保障）。</p> <p>この一連の作業を「ノートテイク」といい、活動を行うピアサポーターを「ノートテイク」と呼びます。</p> <p>駒澤大学では主にノートパソコンを使用した「PCテイク」を行っています。支援で使用するパソコン等の機器は大学が用意します。</p>
2	映像教材の文字起こし	<p>聴覚障がい学生の履修科目で映像教材が用いられる際に、必要に応じて文字起こし原稿を作成します。</p> <p>作業はノートテイクに依頼しており、その都度協力できる人を募っています。</p>
3	ポイントテイク	<p>視覚障がい学生・肢体不自由学生の授業に出席し、授業ノートを作成します。</p>
4	移動補助	<p>肢体不自由などの学生の学内移動補助を行います。（無償ボランティア）</p>



PCテイク体験会の様子



専用ソフト「IPtalk」を用いた
 関係入力練習





NHK「アニ×パラ キャラバン」の公開収録イベントを実施しました

駒澤大学は、学生、教職員のダイバーシティ（多様性）を尊重する「個」を活かした柔軟な大学の実現を目指し、各種関連事業に取り組んでいます。

2023年1月27日（金）には、本学のダイバーシティ推進事業の一環として、「アニ×パラ キャラバン Vol.4 車いすバスケットボール」（2023年2月17日：NHK BS1で放映）の公開収録を実施しました。

「アニ×パラ キャラバン」とは、パラスポーツをオリジナルアニメで描くNHK「アニ×パラ～あなたのヒーローは誰ですか～」のスピノフ企画で、多様性の尊重と共生社会の実現を目指す取り組みとして、パラアスリートが地域を訪れ、若者たちと交流するイベントです。

今回は、東京2020パラリンピックの車いすバスケットボール競技で銀メダルを獲得し、大会MVPにも輝いた鳥海 連志 選手が本学駒沢キャンパスに来校されました。タレントの 武井 壮さん、おのののかさん、脳科学者の 茂木 健一郎 さん（オンライン出演）らとともに、イベントに参加した本学学生も、車いすバスケットボールの体験や鳥海選手との意見交換を行い、共生社会についての学びに繋がる、非常に有意義な時間となりました。



10 人や国の不平等をなくそう



国内及び各国家間の不平等を是正する

SDG:10を取り扱った授業

10 人や国の不平等をなくそう



専門教育科目	「企業管理論b」
担当教員	岩波 文孝（経済学部 現代応用経済学科）
概要	グローバル化とマネジメント 【グローバル経済、不均等発展、グローバル化に伴う企業の社会的責任】

SDG:10を取り扱った研究

10 人や国の不平等をなくそう



教員	末次 美樹（総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門）
研究テーマ	国民体育大会「空手道競技」の大会成績から見える課題
<p>国民体育大会における開催地優勝の慣例システムについて 国民体育大会において、開催地が優勝するという理不尽な慣例システムが働いている。スポーツ倫理の観点から、開催地優勝の慣例システムについて検証することを目的としている。</p>	



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

禅文化歴史博物館が夏のこども向けイベントとして 「地獄・極楽・禅ぱ〜く」（2023.8.1～8.5）を開催

禅文化歴史博物館では「地獄・極楽・禅ぱ〜く」と題して、8月1日(火)～4日(金)にサマーミュージアム(昼の部)を、8月5日(土)にナイトミュージアム(夜の部)を開催しました。

参加者には、夏休みの自由研究にも活用できる「地獄・極楽」をテーマとしたワークシートに挑戦していただき、全問解答した方には、「篁卿六道遊行絵屏風」に描かれた閻魔大王などのキャラクターカードを贈呈しました。

このカードの制作には六道珍皇寺、絵描きユニット「だるま商店」のご協力をいただきました。さらに、株式会社ドトールコーヒーのご協賛により、六文銭を模したスタンプラリー「ROKMO」が行われ、スタンプラリーが完成した方にはチョコチップクッキーがプレゼントされました。館内は「マイ地獄・極楽コンテスト」や撮影スポットなどの様々なコーナーを設け、ご参加いただいた皆さまには仮装も楽しみいただきながら、会場は賑やかな雰囲気になりました。



**地獄・極楽
禅ぱ〜く**

昨年大好評！
サマーミュージアム

8月5日(土)
17:00～20:00
①17:00 入場
②18:00 入場
③19:00 入場

今年夏季開館期間もあり！
8月1日(火)～4日(金)
10:00～16:00
夏休みバージョンの博物館に
あそびにきてね！
(予約不要)

今年も博物館が地獄になっちゃった！
キミは極楽にたどり着けるかな？
「あの世」のテーマパークを楽しんでね！

事前予約制
各回先着 60名

・仮装での参加OK！
・夏休みの宿題にも活用できる！
ワークシートやクイズ等を使用した体験型イベントで楽しく学ぼう！
・撮影スポットもあり！記念写真をたくさん撮ってね！
※グループご来館する場合は保護者の付き添いをお願いします。
※対象は未成年者及びその保護者（今回の内容は小・中学生を想定しています）

後援：世田谷区教育委員会、駒澤大学、東武東横線伊豆野崎駅1-03-1
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS、禅文化歴史博物館

駒澤大学は2022年度より、東京都が推進する「こどもスマイルムーブメント」に参画し、社会連携・社会貢献に取り組んでいます。当イベントは「こどもアカデミー」とともに「こどもスマイルムーブメント」で行われた「こどもスマイル大冒険」の1つとして実施しました。





包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で 持続可能な都市及び人間居住を実現する

「第4回せたがや居場所サミット」を開催しました

5月27日（土）に、駒沢キャンパス種月ホールにて『第4回せたがや居場所サミット～ケアする社会は居場所から～』（主催：せたがや居場所サミット実行委員会・共催：駒澤大学経済学部現代応用経済学科ラボラトリ）を開催しました。

このイベントは、世田谷区で、子ども・若者・高齢者・障害者等、様々な世代の個別課題に対応した『居場所』作りをしている49団体が一堂に会し、実践者らによるパネル展示や事業説明を行うもので、およそ200名の参加者がありました。

トークセッションでは、本学から文学部社会学科の李妍焱教授と、経済学部の松本典子教授が参加し、「居場所」作りを実践している方々や保坂展人世田谷区長と共に活発な意見交換を行い交流を深めました。

第4回 せたがや 居場所サミット
～ケアする社会は「居場所」から～

日 時 2023年5月27日(土)11:00～16:00
会 場 駒澤大学 駒沢キャンパス3号館 種月ホール
参加費 入場無料

●パネル展示 11:00～
～広がる「居場所」の役割～
安藤静恵（株式会社アソビイト/タカセ大倉）
川崎 悠（一般社団法人がっこうのこころ 事務局 事務局員）
佐藤美智子（NPO法人ユウキ）
藤井昌彦（NPO法人ユウキ/学生事務課）
【司会】松本典子（駒澤大学教員）
【コメント】李妍焱（駒澤大学教員）

●展示団体トークリレー 14:00～
●交流タイム 15:00～

お申込み・問い合わせ
電 話：03-5477-9691（中継）
メー ル：mayu@cat2.jp/psj@line.jp





包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

法学部の内海麻利ゼミと グローバル・メディア・スタディーズ学部の服部哲ゼミが 上馬地区ミーティングに参加しました

7月18日（火）、法学部の内海麻利ゼミとグローバル・メディア・スタディーズ学部の服部哲ゼミが、「世田谷地域 地域交流ラボ」の活動の一環として、「上馬地区ミーティング」（上馬地区と本学のミーティング）に参加しました。

「世田谷地域 地域交流ラボ」では、地域と大学の交流をテーマにしてさまざまな調査や研究を実施しており、この度のミーティングでは、学生たちが自らの調査テーマについて発表しました。

各グループにおける調査・研究テーマは、以下のとおりです。

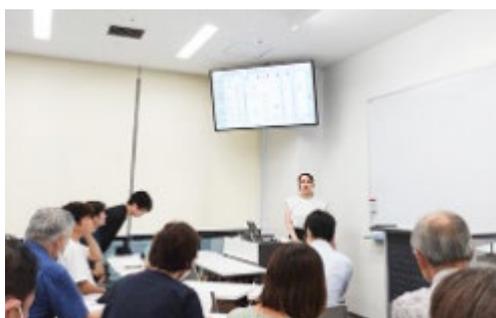
【内海ゼミナール】

- 「アンケートプロジェクト」
（防災情報の認知と発信に関するアンケートの実施）
- 「防災コミュニティラボ」
（防災活動とコミュニティをつなぐ防災訓練の進化系イベントの実施）

【服部ゼミナール】

- 「上馬ウォーキングラリー」

町会の方々とともに活発な質疑応答や意見交換が行われ、今後の有意義な時間となりました。





包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

法学部の内海麻利ゼミが進化系防災訓練「防災コミュニティラボ」を開催しました

法学部の内海麻利ゼミが駒沢キャンパス種月ホールにて、進化系防災訓練「防災コミュニティラボ」を開催いたしました。

「防災コミュニティラボ」とは、楽しく体と頭を動かして、人と人の絆を深めながら、防災意識を高める取り組みで、「進化系防災訓練」にはその意味が込められています。このイベントは、世田谷区と協力して、地域コミュニティの希薄化や防災訓練への参加率を改善するために企画されました。

「防災競技（応急処置競技、障害物競技、災害サイクルリレー）」や「非常食試食会」、「防災グッズの共同製作」、「防災知識クイズ」などが実施され、参加者に災害時に必要な知識や行動を身につける機会となりました。





包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

周辺地域の清掃活動「上馬クリーンキャンペーン」に参加しました

10月3日（火）、「上馬クリーンキャンペーン」が行われ、任意団体サークル「ECO・環境保護サークル Green Grow」の学生5人と職員が参加しました。

参加者は朝8時に集合し、世田谷区の上馬地区の清掃活動を実施しました。参加者は周辺地域の美化活動に取り組むとともに、清掃活動に参加した地域の方々との交流を深めました。



深沢キャンパス「日本庭園」の一般開放

駒澤大学深沢キャンパスは2006（平成18）年に建設され、大学院の講義室や各研究室、公開講座などに利用できるホールが設置されています。キャンパス内には、昭和を代表する建築家である吉田五十八氏が設計した旧三越迎賓館（1972年完成）が現存するほか、和室を備えた日本館と、その周囲には日本庭園や茶室「而今庵」があります。

本学では、毎年春と秋に深沢キャンパス内の日本庭園を一般開放し、地域の皆様に四季折々の表情をお楽しみいただいています。

庭園開放は新型コロナウイルスの影響によりしばらく開催を見合わせておりましたが、2022年11月に感染対策を徹底し再開し、美しく紅葉する庭園をご覧いただきました。



11 住み続けられる
まちづくりを



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

SDG:11を取り扱った授業



専門教育科目	「都市地理学」
担当教員	西山 弘泰（文学部 地理学科 地域文化研究専攻）
概要	青森市におけるコンパクトシティ政策
 	



全学共通科目	「日本考古学概説」
担当教員	寺前 直人（文学部歴史学科 考古学専攻）
概要	世界の文化遺産のありかたと保護の具体的な方法を紹介
 	



専門教育科目	「演習Ⅱ」
担当教員	村山 元理（経営学部 経営学科）
概要	CSR構想インターゼミナールの発表に向けて、ゼミ生の出身地である郡山市を取り上げた。郡山市は「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されていた。現地を訪問し、自治体の職員からインタビューを行い、観光施設を訪問。郡山市の産業・観光の活性化に向けた提案をとりまとめ、発表した。
	



専門教育科目	「演習Ⅱb」
担当教員	高 媛（グローバル・メディア・スタディーズ学部）
概要	ゼミ活動の一環として動画制作に取り組んでいる。今年度は「世田谷ニュース」をテーマに、世田谷区の情報紹介番組を4つ制作した。具体的なテーマは、「世田谷アートタウン2023『三茶de大道芸』」、「PIZZERIA IMOLA」、「KOMAZAWA PARK CAFE」、「佐藤美容院」である。完成動画は高ゼミの公式YouTubeチャンネル（ https://www.youtube.com/user/gmskosemi ）に、取材・編集のエピソードは高ゼミの公式ブログ（ https://gmskosemi.seesaa.net/ ）にそれぞれ掲載し、一般社会に向けて情報発信を試みた。

11 住み続けられる
まちづくりを



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

SDG:11を取り扱った研究

11 住み続けられる
まちづくりを



教 員	西山 弘泰（文学部 地理学科 地域文化研究専攻）
研究テーマ	地方都市における都市のスポンジ化 中心市街地の空洞化と市街地の拡大

11 住み続けられる
まちづくりを



教 員	李 妍焱（文学部 社会学科 社会学専攻）
研究テーマ	市民的コモンズの成立条件に関する研究
社会学専門演習Ⅱの授業内容に合わせた形で、市民的コモンズに関する理論的サーベイを行った上で、タイプの異なる市民的コモンズの事例を対象にインタビュー調査を中心とする質的調査を行った。	

SDG:11に関する教員の活動

11 住み続けられる
まちづくりを



教 員	西山 弘泰（文学部 地理学科 地域文化研究専攻）
官民連携まちなか再生推進事業 カマクリ協議会 委員 宇都宮市中心部を流れる釜川を活用した官民連携のまちづくり活動である（国交省の補助事業）。水や水辺環境の教育活動も行っている。また、空き家などの低未利用地を活用するとともに、クリエイターなどを呼び寄せ、地域活性化を試みている。	

11 住み続けられる
まちづくりを



教 員	寺前 直人（文学部 歴史学科 考古学専攻）
岡山県真庭市 荒木山西塚古墳発掘調査ワーキンググループ委員 真庭市における歴史遺産(古墳)の市民参加発掘の実施をとおした地域づくりに協力	



『正法眼蔵辨註』 版木を使用した摺り作業

駒澤大学は、今を遡ること140年前の1882年に、曹洞宗大学林専門本校として開校しました。当時は、僧侶とその子弟を育成する機関であり、授業で使用する教科書も仏教の経典や禅籍が中心でした。

開校の頃の教科書類は木版印刷と呼ばれる木の板に文字を彫り、顔料をつけて摺りこむ技術で印刷されました。当時の本学では、教科書などの一部は学内で印刷していたため、現在でも本学内には、当時の教科書等の印刷に使用した版木が多く残されています。

禅文化歴史博物館は、2010（平成22）年度から、アダチ版画研究所に依頼し『正法眼蔵辨註』 版木を使用した摺り作業を毎年行っています。刷り作業の様子を資料解説動画として、公開しています。

<https://youtu.be/l6H0zkyLsdo>

『正法眼蔵辨註』 版木



12 つくる責任
つかう責任



持続可能な消費生産形態を確保する

グローバル・メディア・スタディーズ学部の各務 洋子ゼミが SDGsを推進する<駒大生による駒大生のための学生企画>を開催

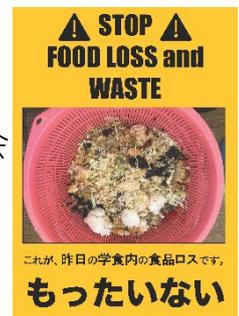
グローバル・メディア・スタディーズ学部の各務 洋子ゼミでは、社会的課題解決に資するために、少子化チーム「LocaRaise」、環境チーム「PLanet」、食品ロスチーム「#ろすのんを救い隊」、少子化チーム「LocaRaise」を立ち上げ、活動を続けてきました。



環境チーム「PLanet」は、本学学内のセブンイレブンの協力を得て、エシカル消費を訴求するポスターを作成し、10月23日から28日まで、エシカル消費を促し購買行動の変革を目指す学生企画を実施しました。



食品ロスチーム「#ろすのんを救い隊」は、本学学食の協力を得て、食品ロスを軽減すべくメッセージやポスターを掲示し、高い効果を生み出しました。同チームは11月26日に開催された日本学生経済ゼミナール関東部会主催「第63回インナー大会プレゼンテーション部門本選」に出場し、上位8チームに入賞しました。



少子化チーム「LocaRaise」は、「親準備性」という課題に取り組み、人口減対策を提案しました。



社会的課題解決のための新たなアプローチ 経済学部の松田 健ゼミによる「ロスが教える未来のカタチ」

経済学部現代応用経済学科の松田健ゼミでは、「ロスが教える未来のカタチ」と題して、ロスフラワーを活用した障がいをもつ子ども達の社会進出を支援する活動を行いました。

捨てられてしまう前の花を受け取って活用することでフラワーロスの現状を改善するとともに、花をポップリ等に加工し、これを商品として社会に還元する過程で、特別支援学級の子ども達が経済活動を理解し職業意識を養う機会をつくるという、社会的課題解決のための新たなアプローチです。ゼミで学んだ知見を活かし、4P（流通、製品、価格、販売促進）等について綿密に練られたプランを、世田谷区立松沢小・中学校の特別支援学級等のご協力のもとに実施しました。



本学学生がFM大阪の未来に繋がる取り組みを紹介する番組 「マクセル meets カレッジナレッジ」に出演しました

大学による未来に繋がる取り組みを紹介するFM大阪とTOKYO FMの番組である「マクセル meets カレッジナレッジ」に、グローバル・メディア・スタディーズ学部の河西駿平さんと経済学部の小林純奈さんが出演しました。河西さんは、少子化問題解決のために「親準備性」という課題に取り組む【LocaRaise】について等、小林さんは「ロスが教える未来のカタチ」の取り組みについて紹介しました。





地域循環コミュニティ「KOMAZAWA MOAI FARM」で行われた「モッタイナイBAR（会議）」に本学学生が参加しました

9月20日（水）、駒沢大学駅前に位置する地域循環コミュニティ「KOMAZAWA MOAI FARM」で、「モッタイナイBAR（会議）」と題したイベントが開催され、本学の学生・教職員が参加しました。

「KOMAZAWA MOAI FARM」は、東急電鉄株式会社、株式会社フードリボン、株式会社ドトールコーヒー、株式会社イマックスが主催する、駒沢大学駅前周辺の事業者、地域住民参加型の環境・循環をテーマにしたファームを運営するプロジェクトです。

また、「モッタイナイBAR（会議）」は、株式会社スキマデザインラボが主催し、サントリー株式会社の協力のもとで実施されるイベントです。このイベントでは、流通ルールにより賞味期限を超えていないにも関わらず廃棄されるお酒を提供し、お酒を楽しみながら社会貢献につなげることができます。

今回のイベントでは、企業や地方自治体と地域のコミュニティが協力し、互いに気づかない課題に耳を傾け、共に新たな価値を模索する実体験型のワークショップが行われました。駒沢大学駅周辺の「モッタイナイこと」をテーマに、環境活動の視点から議論し、持続可能な都市の構築に向けた可能性を模索し、具体的なプランを策定しました。慶應義塾大学や多摩美術大学の学生、社会人も多数参加し、活発な議論が行われました。

本学の参加者は、「異なる業界や大学との交流ができて楽しい時間だった」、「地域への新たな視点を得る機会となり、地域貢献を考えるきっかけになった」と感想を述べ、貴重な機会となりました。



12 つくる責任
つかう責任



持続可能な消費生産形態を確保する

SDG:12を取り扱った授業

12 つくる責任
つかう責任



専門教育科目	「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」
担当教員	松田 健（経済学部 現代応用経済学科）
概要	ロスフラワーを使ったハンディキャップがある生徒（disabled persons）への社会進出支援 FSCで広げる食の支援:(廃棄野菜の再活用：経済的困難世帯への貢献)

12 つくる責任
つかう責任



専門教育科目	「経済政策」
担当教員	山邑 紘史（経営学部 経営学科）
概要	外部性による市場の失敗

12 つくる責任
つかう責任



専門教育科目	「市場戦略概説B」
担当教員	菅野 佐織（経営学部 市場戦略学科）
概要	企業の社会的責任について
<p>昨今、企業に問われている社会的責任（CSR）について講義を行い、実際に環境活動家として起業しているゲストスピーカー講義を行った。</p>	

13 気候変動に 具体的な対策を



気候変動及びその影響を軽減するための 緊急対策を講じる

SDG:13を取り扱った授業

13 気候変動に 具体的な対策を



専門教育科目	「グローバルファイナンスb」
担当教員	小西 宏美 (経済学部 商学科)
概要	株主提案・議決権行使が企業の環境取組強化に与える影響
<p>株主提案などを通じて企業の環境取組強化を促す活動を続けてこられた気候ネットワークの鈴木康子氏に講演頂いた後、グループワークを実施した。講演では株主提案に至る経緯や、他のNPOなどとの連携、企業との対話、資産運用会社による議決権行使などについて具体的にご説明頂いた。グループワークでは「銀行にどのような提案を出せば気候変動対策が進むか?」という課題に対して様々な意見が出た。未来の社会に向けて金融がもつ可能性を考えることができた。</p>	

13 気候変動に 具体的な対策を



専門教育科目	「公共経済学b」
担当教員	鈴木 伸枝 (経済学部 現代応用経済学科)
概要	公共財 (3) 環境問題、所得再分配

13 気候変動に 具体的な対策を



専門教育科目	「企業論」
担当教員	鹿嶋 秀晃 (経営学部 経営学科)
概要	サーキュラーエコノミー

SDG:13を取り扱った研究

13 気候変動に 具体的な対策を



教員	村山 元理 (経営学部 経営学科)
研究テーマ	海外におけるパーパスの隆盛についての研究
<p>Purposeという言葉が海外で広がった背景に、環境や人権を企業の存在意義(パーパス)に置くべきという思想が世界的運用機関BlackRockのCEOのLarry Finkの2019年のレターで明かされ、それに呼応して米国のビジネスラウンドテーブルがパーパス宣言を行った。パーパスがいかに経営学研究で取り上げられているのか学会で報告した。</p>	

14 海の豊かさを
守ろう



持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、
持続可能な形で利用する

SDG:14を取り扱った研究

14 海の豊かさを
守ろう



教 員	山邑紘史（経営学部 経営学科）
研究テーマ	共有資源の資源配分問題
漁業資源の配分問題において、「漁業資源を採取しない可能性」を視野に入れた制度設計を提唱した。	



16 平和と公正を
すべての人に



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

法科大学院「市民ロースクール」

駒澤大学法科大学院では、世田谷区にある唯一の法科大学院として、身近な法律の問題に関する情報や知識を提供するための連続講座「市民ロースクール」を開催しています。

第20回 市民ロースクール 【2023年 7月1日（土）10：00～11：30】
「相続登記義務化」って何？～疑問を解決！

第21回 市民ロースクール 【2024年 2月10日（土）10：00～11：30】
「人と動物の共生する社会の実現に向けて」



法科大学院「無料法律相談」

法曹養成機関である法科大学院においては、法学理論だけでなく実務の基礎についても実践的な教育を必要とします。

駒澤大学法科大学院では、臨床教育の一環として、また世田谷区唯一の法科大学院としての地域貢献を目的として、年に数回、「無料法律相談」を開催（共催・後援）しています。

2023年度

春季：無料法律相談【5月20日（土）】

秋季：無料法律相談【11月25日（土）】



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

トルコ・シリア地震における救援金の募金

「仏教の教えと禅の精神」を建学の理念に掲げ、「智慧」と「慈悲」を一身に具える人材の養成を目的に教育・研究活動を行っている本学は、すべての生きとし生けるものにとって、命は等しく尊く、かけがえのないものとして考えています。

本学では、2023年2月にトルコ南東部を震源地として発生した「トルコ・シリア地震」で被災された方への人道支援を目的とした募金活動を実施しました。

【募集期間】 3月6日（月）～4月18日（火）

【お預かりした募金の取扱い】

募集期間終了後速やかに、責任を持って国際協力NGOワールドビジョン(日本法人名 ワールド・ビジョン・ジャパン)に振り込みました。救援・復興支援等に用いられることになっております。

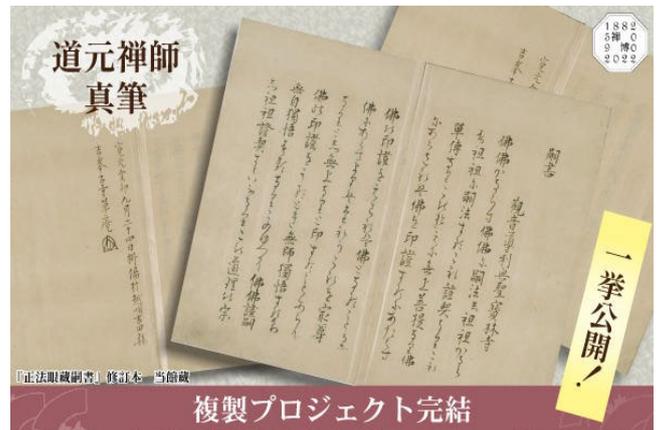


持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

禅文化歴史博物館が道元禅師直筆『正法眼蔵嗣書』草案本のレプリカ作製のためクラウドファンディング第2期を実施

当該プロジェクトは、当館が所蔵する道元禅師真筆『正法眼蔵嗣書』修訂本（清書版）の下書きにあたる草案本（全国11ヶ寺に分散・所蔵）のレプリカを作製し、一堂に展示することを目指したものです。昨年度に引き続き実施したクラウドファンディング（寄付）には、多くの心のこもったご支援をいただきました。

2023年度は北陸・東日本に所在する5箇寺6点のレプリカを作製し、無事にすべての草案本の複製が完結いたしましたので、当館所蔵の修訂本（清書版）と共に展示することができました。



複製プロジェクト完結
『正法眼蔵嗣書』の成立
～草案本と修訂本～
2024年 3月1日(金)～7月30日(火)

駒澤大学開校140周年・禅文化歴史博物館開館20周年記念事業として道元禅師真筆『正法眼蔵嗣書』草案本レプリカ作製を2箇年度にわたって実施してきました。クラウドファンディングでのご支援も賜り、現在所在が判明している13切すべての草案本レプリカが無事に完成しましたので、当館所蔵の修訂本（清書版）と共に一挙公開いたします。

駒澤大学禅文化歴史博物館
住所：〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
電話番号：03-3418-9610
開館時間：10:00～16:30（入館は16:15迄）
休館日：土（第3土曜日を除く）・日・祝日
その他大学の休業日に準ずる
後援：世田谷区教育委員会





持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

ドゥルガ・バハドゥール・スベディ駐日ネパール大使が 本学を表敬訪問されました

6月14日（水）に、ドゥルガ・バハドゥール・スベディ駐日ネパール大使が本学を表敬訪問され、各務 洋子 学長と会談しました。

当日はネパール国立ルンビニー仏教大学（Lumbini Buddhist University）の副学長、学部長らも同席され、本学からは吉田 尚史 副学長、遠藤 司 副学長、真下 祐一 国際センター所長が出席し、お互いの大学の情報交換のほか、今後の交流について意見交換を行いました。





持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

令和5（2023）年度「駒大生社会連携プロジェクト」

駒澤大学では、本学における社会連携・地域貢献にかかわる様々な教職員と学生の活動への支援を目的とした学内公募型の助成「駒大生社会連携プロジェクト」を、令和4年度から行っております。

令和5年度は、世田谷区部門、産官学連携部門、SDGs部門の3つのテーマを設け、計8件の申請があり、外部審査員による評価、および社会連携委員会等で審議した結果、8件全てが採択されました。

5月12日（金）に、採択決定通知書交付式が開催され、各務洋子学長より、採択決定通知書とともに激励のメッセージが送られて以降、2024年1月末の期間終了まで、各プロジェクトのメンバーは熱心に活動을続け、成果を挙げました。

(1) 世田谷部門

【世田谷区ACP普及啓発のためのデザイン】

（経営学部 市場戦略学科 小野瀬 拓 教授）

【「市民的コモンズ」に関する質的調査研究と地域間ダイアログ@ふかさわの台所】

（文学部 社会学科 社会学専攻 李 妍焱 教授）

【まちのキーパーソンから学ぶ「せたがやのコミュニティ活性」に関する基礎研究】

（経済学部 現代応用経済学科 松本 典子 教授）

【PBL型授業のモデル確立－世田谷発の起業家教育－】

（経済学部 現代応用経済学科 長山 宗広 教授）

(2) 産官学連携部門

【文化資源（埼玉県川角古墳群）を活かした地域魅力の発見と発信】

（文学部 歴史学科 考古学専攻 藤野 一之 講師）

【駒澤大学社会連携ゼミ交流会】

（経済学部 現代応用経済学科 大前 智文 准教授）

【社会連携・キャリア教育セミナー 社会連携・キャリア教育教材作成】

（経済学部 現代応用経済学科 山田 雅俊 教授）

(3) SDGs部門

【自作型放射線学習支援教材を活用したリテラシー教育の実践と普及】

（医療健康科学部 診療放射線技術科学科 村田 渉 助教）





持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

留学生が世田谷区の交流事業の一環として区立小学校を訪問しました

2023年2月4日（土）、本学の留学生3人が世田谷区の交流事業である「大学連携提案と区立幼稚園、小・中学校とのマッチング事業」の一環で世田谷区立上北沢小学校を訪問し、母国の文化を伝えました。

留学生たちは、母国の食べ物、民族衣装、特徴的な建造物などの写真を準備し、子供たちに分かりやすく説明しました。また、各言語（中国語・ベトナム語）の1から5までを教えました。さらに、簡単にできる子どもたちの遊びを教えてください、という希望に応じてベトナムの遊びである「バインドゥア（Banh Đũa）」を紹介しました。

授業の前半に教えた各言語の数を組み合わせてアレンジを加えたことにより、一層楽しいレクリエーションになりました。訪問した小学校からは、「子どもたちが留学生との交流をととても楽しんでいた」、「遊びと言葉がミックスしているため、やや高度でかつ勉強にもなった」、「留学生の人たちの人柄がよく、子供たちと気さくに接していた」などといった感想を受けました。





持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

受託研究・学外共同研究・奨学研究寄付・寄付講座

駒澤大学では、産学連携事業の推進として、受託研究および奨学研究寄付の受入れ、学外共同研究の実施および寄付講座の設置等により、「研究成果の社会への還元」と「大学と社会が協働して課題を発見・共有し、新たな価値を生み出す活動」を展開しています。

【2023年度 受託研究 ※事例抜粋】

本学教員	姉齒 暁（経済学部 商学科）
委託者	一般財団法人 下越農民会館
研究課題	継続課題：社会福祉としての食と農のあり方を考える 新規課題：①日本における全年齢階層にわたる給食システムの応用とその課題、 ②有機農産物の給食及び配食システムへの応用可能性の拡大について
研究目的 (内容)	スウェーデンでの研究で得られた知見をもとに有機農産物を学校給食に活用できるシステムの確立に向けた提言をまとめる。さらに、学校給食調理場や公的施設を利用した独居高齢者への配食サービスをはじめ全年齢階層を包摂できる給食システムの可能性について、これまで得られた市民向けアンケート調査を活用しながら政策提言までを視野に入れた研究を行う。

本学教員	新井 知大（医療健康科学部）
委託者	環境省
研究課題	診療放射線技師を対象とした放射線災害時におけるリスクコミュニケーションについての研修の体系化及び放射線災害時における診療放射線技師を活用した支援体制の構築に関する調査研究
研究目的 (内容)	放射線災害時における診療放射線技師を活用した支援体制の構築に関する検証

17 パートナシップで
目標を達成しよう



持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

【2023年度 学外共同研究 ※事例抜粋】

本学教員	内海 麻利（法学部 政治学科）
共同研究機関	世田谷区
研究課題	地域コミュニティにおける防災情報の認知と発信に関する研究
研究目的 （内容）	世田谷区内在住・在勤・在学者の防災意識の検証と地域コミュニティの課題の1つである防災行動の改善案を提案する。

本学教員	藤田 幸男（医療健康科学部）
共同研究機関	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
研究課題	放射線治療における固体線量計を用いた出力線量測定技術に関する研究
研究目的 （内容）	郵送による線量測定が容易な固体線量計を用いて、放射線治療施設の出力線量を測定するために必要な技術開発を目的とする。

【2023年度 寄付講座】

科目	「法式実習」仏教学部 専門教育科目
担当教員	角田 泰隆（仏教学部 禅学科）
寄付団体	曹洞宗施檀林講座支援会

科目	「アドバンスマーケティング」 グローバル・メディア・スタディーズ学部 専門教育科目
担当教員	朴 正洙（グローバル・メディア・スタディーズ学部）
寄付団体	新日本製薬株式会社



持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

【2023年度 奨学研究寄付】

本学教員	青柳 西蔵 (グローバル・メディア・スタディーズ学部)
共同研究機関	公益財団法人 カシオ科学振興財団
研究課題	場所同一性の行動学—行動再現モデルの検証
研究目的 (内容)	VR場所再現の設計理論の基礎となる、VR場所再現の元の場所の併存を前提とした基礎行動モデル、「行動再現モデル」をフィールド実験によって検証する。
	



持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

SDG:17を取り扱った授業



専門教育科目	「ソーシャル・イノベーション論」
担当教員	李 妍焱 (文学部 社会学科 社会学専攻)
概要	<p>第2回 ソーシャル・イノベーション興隆の背景—新自由主義、資本主義の限界、脱成長、幸福学、Z世代など</p> <p>第6回 ソーシャル・イノベーションの実践と理論 (担い手：社会起業家とその育成)</p> <p>第7回 ソーシャル・イノベーションの実践と理論 (担い手：社会的企業とそのエンパワーメント)</p> <p>第8回 ソーシャル・イノベーションの実践と理論 (方法論1：ソーシャル・デザイン)</p> <p>第9回 ソーシャル・イノベーションの実践と理論 (方法論2：コミュニティ・オーガナイズング)</p> <p>第10回 ソーシャル・イノベーションの実践と理論 (環境づくり：ソーシャル・エコシステム論)</p> <p>第11回 ソーシャル・イノベーションの実践と理論 (評価：インパクト論)</p>



専門教育科目	「社会学専門演習Ⅱ」
担当教員	李 妍焱 (文学部 社会学科 社会学専攻)
概要	市民的コモンズをテーマとした質的調査研究
<p>建築デザインによるコモンズ、場づくりによるコモンズ、コトづくりによりコモンズという3つのタイプ、合計7つの事例を対象に調査研究を実施した。</p>	

SDG:17を取り扱った研究



教員	藤野 一之 (文学部 歴史学科 考古学専攻)
研究テーマ	埼玉県二子山古墳出土土器の研究
<p>埼玉県立さきたま史跡の博物館と協働した古墳研究 特別史跡埼玉古墳群の二子山古墳から出土した土器について、研究を進めその成果をシンポジウムで一般市民へ公表した。</p>	
<p>4 質の高い教育を みんなに</p>	<p>11 住み続けられる まちづくりを</p>



SDGs全般を取り扱った授業

	専門教育科目	「市民社会論」
	担当教員	李 妍焱（文学部 社会学科 社会学専攻）
	概要	第2回 映像で学ぶ—持続可能な社会に向けた問題提起： 危機が明確でも行動に結びつかない？ 第3回 映像で学ぶ—持続可能な社会に向けた取り組み： 危機に対応するのは、対応できるのは誰か、どのように可能か？ 第4回 外部講師：持続可能な未来を目指すSDGsと市民社会：常識化するSDGsだが、その提起の背景と経緯、今後の展開を左右する存在としての市民社会。

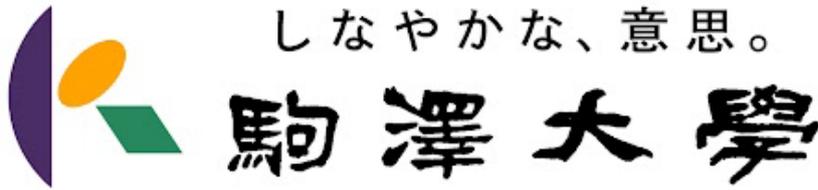
	専門教育科目	「演習Ⅱ」
	担当教員	菅野 佐織（経営学部 市場戦略学科）
	概要	産学共同プロジェクトへの参加 産学共同プロジェクトに参加し、グループごとに地域貢献や地球環境保護に貢献するマーケティングプランを立案した。

	専門教育科目	「現代企業論B」
	担当教員	小本 恵照（経営学部 市場戦略学科）
	概要	企業の社会的責任

SDGs全般を取り扱った研究

	教員	小西 宏美（経済学部 商学科）
	研究テーマ	ユニバーサルファンドによる民主資本主義の実現
	ユニバーサルファンドという仕組みを通じて、気候変動や貧困削減などのSDGs目標を達成するための具体的提案を行った。	

	教員	小野瀬 拓（経営学部 市場戦略学科）
	研究テーマ	企業家研究におけるSDGsへの言及
	世界と国内の企業家研究（entrepreneurship study）で、どれだけSDGsが言及されているかを簡単に調査した。言及レベルでは数多くの論文でなされているものの、トップジャーナルではまだ十分に増えていないことが判明した。	



発行日 2024（令和6）年3月31日
発行 駒澤大学社会連携委員会
事務局 駒澤大学 学術研究推進部 社会連携課（社会連携センター）